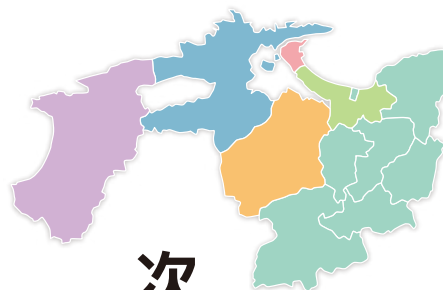


中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン



目次

はじめに（会長あいさつ）…………… 2

第1章

中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンの目的 … 3

1. 圏域の構成自治体 …………… 3
2. ビジョンの策定にあたって …………… 3
3. ビジョンの期間 …………… 3

第2章

中海・宍道湖・大山圏域の現状と分析…………… 4

1. 構成自治体の特徴 …………… 4
2. 圏域の特徴 …………… 6
3. 圏域に関する意見聴取及び現状分析 …………… 16

第3章

圏域発展に向けた基本方向と将来像 …………… 27

1. 基本方向設定にあたっての視点 …………… 27
2. 基本方向 …………… 27
3. 将来像 …………… 36

第4章

ビジョンの推進にあたって…………… 40



はじめに

中海・宍道湖・大山圏域市長会は、中海・宍道湖沿岸の5市で構成し、その首長と、鳥取県西部町村会長をオブザーバーとして、圏域の連携強化と一体的な発展をめざし、平成24年4月に結成いたしました。

本圏域には、ラムサール条約の登録湿地である「中海」や「宍道湖」、そして中国地方最高峰の「大山」など豊かな自然と、神話の時代から連綿と続く歴史・文化も色濃く残っています。

また、水産業・農業といった第1次産業をはじめ、特色あるものづくり産業や、医療・福祉サービスが集積し、充実した都市機能を併せ持った圏域といえます。

一方昨今のわが国では、全国的な人口減少と少子高齢化が進行し、諸外国の経済動向が地域経済へも大きな影響を与える経済のグローバル化、地球温暖化に代表される環境問題の顕在化など、大きく社会状況が変化しており、個々の自治体だけでは解決できない課題も多くあります。

中海・宍道湖・大山圏域市長会ではこうした状況を踏まえ、本圏域が有している特徴的な資源や優位性を有効的に活用し、一体的な圏域振興へ繋げる共通の目標と方向性が必要であると考えました。

この度策定をいたしました「中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン」では「水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から 未来へつなげる」を将来像に掲げ、その具現化に向け4つの方向性を提案しております。

この将来像を実現していくためには、行政だけではなく、圏域内で活動する住民の方々や各種団体、企業など多様な主体が相互に協力関係を築き、共に推進していくことが不可欠と考えております。

本圏域の発展に向け、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本振興ビジョンの策定にあたり、アンケートやヒアリングを通じ、貴重なご意見、ご提言をお寄せいただきましたの方々をはじめ、本市長会に関わっていただいているすべての方に心よりお礼申し上げます。

平成25年3月

中海・宍道湖・大山圏域市長会

会長	米子市長	野坂康夫
副会長	松江市長	松浦正敬
副会長	出雲市長	長岡秀人
	境港市長	中村勝治
	安来市長	近藤宏樹
	鳥取県西部町村会長	竹内敏朗

第1章

中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンの目的

1. 圏域の構成自治体

本ビジョンの「中海・宍道湖・大山圏域」とは、米子市・境港市・松江市・出雲市・安来市の5市に、オブザーバーとして大山圏域（鳥取県西部7町村）を加えたエリアです。

（※以後、『圏域』とは上記エリアをさす。）

2. ビジョンの策定にあたって

(1) ビジョン策定の趣旨

わが国では、全国的な人口減少と少子高齢化が進行する中、総人口は既に減少に転じており、平成58(2046)年には1億人を割り、平成67(2055)年には9千万人弱になることも予測されています。

また、経済産業分野においては、円高やアジアを中心とする新興国の成長などの影響を受け、長期的な活力の低下が続いています。加えて、東日本大震災に伴い、従来から続いていた海外への生産拠点や研究開発拠点の移転がますます加速することも懸念されています。このような厳しい経済環境のなかで持続的な成長を続けていくため、新しい内需やグローバル市場を見据えた産業を創出・推進していくことが求められています。

さらに、国全体が人口減少社会、低成長社会を迎えるなか、人口、人材、成長機会の獲得をめざして、産業振興や雇用の拡大、教育・福祉・医療環境など、さまざまな分野で都市間競争がはじまっており、地域の経営資源（人・モノ・財・情報）を有効に活かした成長戦略の立案と目標達成に向けた取り組みが求められています。

一方、地方にあっては、地方分権の時代を迎え、基礎自治体には複雑化する行政課題や住民サービスの多様化・高度化に対する総合的な政策対応が求められるとともに、行財政改革や効率的な行政経営への要請も高まっており、近隣自治体とのより広域的な連携・補完が重要となっています。

「中海・宍道湖・大山圏域市長会」は、こうした時代の変化を踏まえ、これまで中海沿岸の4市（米子市、境港市、松江市、安来市）で構成していた「中海市長会」の枠を広げ、より広域での総合的、一体的な発展をめざし、平成24年度から出雲市と大山圏域（オブザーバー）を加えた構成で設立されました。

(2) ビジョン策定の目的

本圏域は、古くから地理的・歴史的なつながりがあり、豊かな自然と歴史・文化を背景に、恵まれた生活環境や、充実した都市機能を有する山陰の中核的な都市圏として発展してきました。産業や交流も盛んで、日本海側の都市圏における高い潜在能力を有しています。この潜在能力を有効に活用し、本圏域が連携して一体的にさらに発展していくためには、構成各市が有する特徴的な資源や優位性を活かした連携を推し進める、共通の目標と方向性が必要です。

本ビジョンは、圏域内で活動する住民・NPO や各種団体、企業、行政などの各主体が共有する圏域の将来像を示し、圏域振興の指針として提案するものです。

なお、圏域の構成自治体には、それぞれ総合計画などがありますが、本ビジョンは、それらの計画と直接的な関係や位置づけを持つものではありません。

3. ビジョンの期間

本ビジョンは、圏域振興の方向性と将来像の共有を主目的としていることから、ビジョンの期間は示さず、圏域を取り巻く環境変化や構成自治体の政策推進の状況などを踏まえ、適宜必要な修正・補強を行うことで、その有効性を確保していきます。

また、定期的に将来像実現に向けた取り組みの進捗状況についても多面的に検証し、その有効性を補完していきます。



第2章 中海・宍道湖・大山圏域の現状と分析

1. 構成自治体の特徴

米子市 ~自然と人が共生する にぎわいのまち~

米子市は白砂青松の弓ヶ浜半島、中国地方随一の秀峰大山の四季折々の雄姿と山麓から湧き出る名水に恵まれた自然豊かな土地であるとともに、明治時代からつづく鉄道網の拠点であり、現在でも米子自動車道、米子鬼太郎空港を擁する山陰の交通の要衝です。また、古くから「山陰の商都」と称される商業の町で、新しいものを積極的に受け入れる進取の気質にあふれ、交流により発展してきた、開放的で活気あふれる都市です。特産の白ネギは西日本一の出荷量を誇っています。



出雲市 ~げんき、やさしさ、しあわせあふれる 縁結びのまち~

古事記や出雲国風土記には、出雲を舞台とする数多くの神話が記載されており、出雲大社をはじめとする神話の國を象徴する歴史・文化遺産に、全国から多くの観光客が訪れます。島根県内随一の農業地帯であるとともに、製造品出荷額は島根県全体の約4割を占め、各産業がバランスよく調和した都市です。また、高度医療機関が集積し、出雲縁結び空港など交通拠点としての機能も備えるとともに、特別天然記念物トキの分散飼育地及び国内最大級の風力発電所は環境保全のシンボルとなっています。



境港市 ~さかなと鬼太郎のまち~

境港市は、カニの水揚げ日本一の「境漁港」のほか、北東アジアゲートウェイ機能を有し、圏域における物流・人流の拠点である「日本海側拠点港・境港」、韓国ソウルへの国際定期便が就航する「米子鬼太郎空港」といった海と空の港を有することから、圏域をはじめ西日本と海外を結ぶ交流拠点となっています。近年、全国的な観光地として定着した「水木しげるロード」は、年間300万人の観光客が訪れる圏域屈指の人気スポットとなっています。また、全国的にも大変貴重な「伯州綿」を次の世代に継承していこうとする取り組みが始まっています。



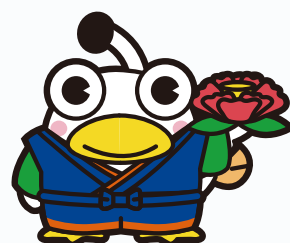
安来市 ~安来節とハガネのまち~

安来市は、古くから中国山地で産出される良質の和鉄の集散地として栄えました。現在もその流れをくむ日立金属(株)安来工場があり、協力会社や取引企業など金属関連製造業の集積があります。また、市の南部は中国山地に連なる豊かな緑に覆われ、市域を流れる飯梨川・伯太川両河川は優れた農地を育てています。さらに「どじょうすくい踊り」で有名な民謡『安来節』をはじめとする伝統芸能など多彩な文化を有しています。



松江市 ~水と緑、歴史と文化を大切にするまち~

松江市は、中海、宍道湖、日本海に囲まれた水の都であり、神話の舞台と伝わる地や、松江城を中心に城下町風情が残る、自然と歴史が豊かなまちです。文豪小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は著書「知られぬ日本の面影」で、松江の風景などを広く世界に紹介しており、京都・奈良と並ぶ「国際文化観光都市」でもあります。諸手船神事やホーランエンヤなどの神事や、ユネスコ無形文化遺産「佐陀神能」が地域で大切に受け継がれており、また松江藩7代藩主松平不昧公により広められた茶の湯文化は、今なお市民生活に息づいています。



大山圏域 (鳥取県西部7町村) オブザーバー

大山圏域は、山地の多い地形ながら三国山を源流に、大山の麓を経て美保湾に注ぐ日野川流域に平野が形成されています。大国主命の古事に由来する多くの史跡・地名や、米子市に連なる日本最大級の弥生集落遺跡・妻木晩田遺跡などが示すように、古来より人々が生活を営む場でした。江戸時代には、日野川上流域で大規模な鉄穴流しが行われ、たたら製鉄や出雲街道の宿場町として栄えた当時の町並みが今もなお残っています。そして、大山は西日本最大のブナ林や日本有数の水資源を誇り、質の高い農畜産物・果樹などの栽培も盛んです。また、その雄大な景観とともに歴史・文化資産的にも貴重であり、スキー場や登山道・散策コースのほか大山寺や大神山神社などの神社仏閣や名所旧跡、山麓のリゾート施設など、観光資源も豊富です。



2. 圏域の特徴

本圏域は、全国で5番目に大きい湖「中海」と、7番目に大きい湖「宍道湖」、中国地方の最高峰「大山」を有しています。

この圏域には、ラムサール条約登録湿地^(※1)や国立公園など豊かな自然環境と、神話の時代から連綿と続く歴史・文化も数多く残っており、恵まれた生活環境であるとともに、観光資源も豊富な地域といえます。さらに、特色ある産業、医療、福祉施設が集積しており、充実した都市機能をあわせ持った山陰の中核的な都市圏として発展してきました。

また、米子鬼太郎空港とソウル仁川空港を結ぶ国際定期便に加え、境港市と韓国(東海市)、ロシア(ウラジオストク市)を結ぶ環日本海国際フェリーが就航したことにより、今後は韓国、ロシア、さらにはシベリア鉄道を介して欧州を視野に入れた国際物流の拠点として、北東アジアへのゲートウェイ(玄関口)となりうる高い潜在力を有しています。



※1 ラムサール条約:正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。国際的な協力のもと、湿地の賢明な利用と保全を進め、次世代に伝えていくことを目的とする国際条約。日本国内では、37箇所が登録されている。

(1) 歴史・文化

①歴史・伝統文化:古代神話の時代からの歴史的一体性とむすびつき

奈良時代に編纂された『出雲国風土記』(733年完成)の冒頭には、本圏域を舞台とする壮大な伝承として「国引き神話」が描かれています。この地域が、朝鮮半島、北陸地方そして隠岐島あたりから引き寄せられた土地と、それを引いた綱(弓ヶ浜・菌の長浜)や杭(大山・三瓶山)からできあがったという、この圏域の歴史的一体性を象徴する物語です。

本圏域の淀江平野と出雲平野にあった大きなラグーン(潟)、さらにそれをつなぐ中海・宍道湖の内水海という地形的な特色が、弥生時代以来、日本海を東西に行きかうヒト・モノ・情報をこの圏域に集積しました。域内の弥生時代遺跡からは、北陸から九州、そして朝鮮半島の文物が多数発見されており、稲吉角田遺跡(米子市)の弥生土器に描かれた大型船は、当時の海上交通のにぎわいをうかがわせるものです。おそらく、宍道湖南岸にある田和山遺跡(松江市)からは、その活況が間近に感じられたことでしょう。

およそ1800年前、ちょうど邪馬台国の女王「卑弥呼」が活躍した弥生時代の終わりには、この圏域に「よすみ」(四隅突出型墳丘墓)と呼ばれる特徴的な墓が造られました。西谷墳墓群(出雲市)から、仲仙寺・宮山墳墓群(安来市)、そして妻木晩田遺跡(米子市・大山町)に至るその分布は、本圏域のまとまりを示すものとして注目されます。

飛鳥時代の終わり頃(約1300年前)、華麗な壁画に飾られた上淀廃寺(米子市)が造られました。その屋根にのせられた軒先の瓦の蓮華紋は、奈良時代になると教皇寺跡(安来市)、山代郷北新造院跡(松江市)、稲城・小野遺跡(出雲市)へと広がりました。

さらに、450年ほど前の戦国時代には、山陰の雄といわれた尼子氏が、この圏域を基盤としていました。杵築大社[出雲大社]や鱒淵寺(出雲市)、そして清水寺(安来市)は、この尼子氏を支えた有力な寺社です。尼子氏の本拠地・月山富田城(安来市)は山陰の要衝の地となり、圏域内は毛利氏との度重なる攻防戦の舞台となりました。最終的に尼子氏は毛利氏によって滅ぼされ、戦国末期には毛利一族の吉川広家が本圏域を治めました。

江戸時代になると初代米子藩主・中村一忠が米子城を完成させて城下町を形成し、商都米子の礎を築きます。また、月山富田城に入った初代松江藩主・堀尾吉晴が居城として松江城を新たに築城し、都市構造を備えた城下町を形成します。一方、現在の出雲市大社町の一部は出雲大社領や日御碕神社領、佐田町の一部は平安時代から続く京都・石清水八幡宮領とされていました。

明治維新後、廃藩置県により鳥取藩は鳥取県となり、松江藩は松江県となったのちに広瀬、母里を合併して島根県となりました。明治14年に現在の鳥取県・島根県が誕生した後、明治・昭和・平成の市町村合併を経て、圏域内は現在の構成市となっています。

本圏域には、古代文化を今に伝える遺跡や史跡が多数あるほか、国宝の神魂神社本殿(松江市)、出雲大社本殿(出雲市)、荒神谷遺跡出土品(出雲市)をはじめとする貴重な有形の文化財が多数あります。

②市民生活に根ざした文化:豊富な食材と特色ある食文化・スポーツ・郷土芸能

本圏域には、カニやマグロなどの日本海の幸をはじめ、宍道湖七珍・中海七珍といわれる宍道湖・中海で獲れる魚介類など、水産資源を中心に豊富な食材があります。トビウオのすり身を原料としたあご野焼き、そばの実を殻ごと挽いた出雲そば、茶の湯文化とともに広まった松江の和菓子など、独自の食文化が今に伝わっています。

また、米子市はトライアスロンや、アウトドアスポーツを通じて自然の循環を体感する環境イベント「SEA TO SUMMIT(シートゥーサミット)」の日本発祥地であり、豊かな自然環境を舞台とした特色あるスポーツ文化が育まれています。このほか、鉄や米などの積出港として栄えた安来の安来節や、北前船による交易の拠点として栄えた米子・境港のさんご節や、松江の関乃五本松節など、生活に根ざした民謡も歌い継がれています。





(2) 自然環境：中海・宍道湖・大山に代表される豊かな自然

本圏域は山間部、斐伊川・日野川などの河口にあたる平野部、島根半島の海岸部まで、一体的な自然環境を有しています。そして、大山の山岳・高原地帯や中国山地の豊富な森林地帯、河川によって形成された弓ヶ浜半島や出雲平野、島根半島の隆起・沈降海岸など、多彩な景観が中海・宍道湖や日本海とともに、本圏域の雄大な自然景観を作り出しています。

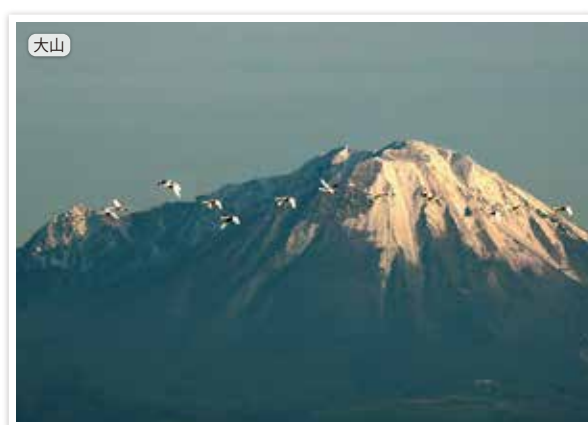
中海は、鳥取・島根両県にまたがって位置し、西は大橋川を介して宍道湖と、東は境水道を介して日本海へとつながっている汽水湖で、中国山地を源とする一級河川斐伊川水系の一部として、大山隠岐国立公園と隣接しています。

宍道湖は、島根県東部に位置し、東は中海とつながり、北、西、南から斐伊川をはじめ約30の河川が直接流れ込む汽水湖です。特に刻々と表情を変える夕景の美しさは絶景で、宍道湖の夕日は日本夕陽百選にも選定されています。また、宍道湖の西岸には美しい田園風景の広がる出雲平野が形成されています。

中海・宍道湖は、国際的に重要な湿地として平成17年にラムサール条約に登録されており、住民の憩いの場や観光資源などとして親しまれる圏域の貴重な財産となっています。そして、西日本最大の渡り鳥の飛来地となっており、中海はコハクチョウ、宍道湖はマガンの日本国内での越冬地の南限として知られているとともに、宍道湖にはヤマトシジミなどの魚介類が生息し、内水面での豊かな漁場となっています。

大山は、鳥取県西部に位置し、西側から見ると富士山のようななだらかな形をしていることから、「伯耆富士」とも呼ばれています。古来より日本四名山に数えられ、日本百名山・日本百景にも選定されているほか、山岳信仰の一大勢力として隆盛を極めていた霊山でもあります。また、国の特別天然記念物ダイセンキャラボクの群生地や西日本最大級のブナの原生林があるほか、鳥類の宝庫ともいわれ、野生動物も多数生息しています。新緑や紅葉の季節には、中腹のブナの原生林が美しい景観を生み出します。

このほか圏域の北部にある島根半島は、大山隠岐国立公園の一部をなし、加賀の^{くげど}潜戸や^{ひのみきき}日御碕など、多くの景勝地が存在します。さらに、圏域内には鳥取・島根・広島^{の3}の3県にまたがる比婆道後帝釈国定公園と清水月山(安来市)、宍道湖北山(松江市・出雲市)、立久恵峡(出雲市)、奥日野(日野町・日南町)という4つの県立自然公園もあり、山陰両県を代表する優れた風景地が保護されています。



(3) 人口：日本海側の主要都市圏で第3位の人口集積

本圏域の人口は約66万人(「平成22年国勢調査」)で、山陰両県の人口の約5割を占めています。日本海側の主要都市圏と比較すると、新潟都市圏(約114万人)、金沢都市圏(約74万人)に次ぐ人口の集積地です。

■日本海側主要都市圏との比較(面積・人口)

	総面積 (km ²)	可住地面積 (km ²)	人口総数 (人)	15歳未満 人口 (人)	15~64歳 人口 (人)	65歳以上 人口 (人)	年少人口 割合	高齢化率
中海・宍道湖・大山圏域	2,826	842	662,035	89,673	393,825	171,847	13.5%	26.0%
米子市	132	99	148,271	20,678	88,910	35,379	13.9%	23.9%
境港市	29	26	35,259	4,722	21,167	9,297	13.4%	26.4%
松江市	573	161	208,613	28,051	126,906	50,512	13.4%	24.2%
出雲市	624	226	171,485	24,402	102,375	44,584	14.2%	26.0%
安来市	421	96	41,836	5,438	23,626	12,760	13.0%	30.5%
鳥取県西部7町村	1,047	233	56,571	6,382	30,841	19,315	11.3%	34.1%
新潟都市圏	3,313	1,608	1,137,579	143,629	710,844	277,622	12.6%	24.4%
金沢都市圏	1,559	571	743,647	104,939	477,864	152,879	14.1%	20.6%
福井都市圏	2,218	727	625,619	87,542	378,462	152,787	14.0%	24.4%
富山都市圏	1,844	752	508,027	67,772	312,846	124,707	13.3%	24.5%
高岡都市圏	1,345	583	425,509	54,678	254,740	114,949	12.9%	27.0%

資料：総務省「国勢調査(平成22年)」、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調(平成22年)」、農林水産省「世界農林業センサス(2010年)」

(4) 産業：事業所・従業者数は日本海側都市圏で第4位、 総生産は山陰両県の約5割を占める

本圏域の事業所は約3.4万事業所、従業者数は約32万人で、日本海側の主要都市圏と比較すると、新潟都市圏、金沢都市圏、福井都市圏に次ぐ規模です。また、圏域内の市町村内総生産^(※2)の合計は2兆1758億円(平成21年度)で、山陰両県の約5割を占めており、人口と同様に多くの産業が集積しています。

■日本海側主要都市圏との比較(事業所数・従業者数)

	事業所数 (事業所)	第2次産業 事業所数		第3次産業 事業所数		従業者数 (人)	第2次産業 従業者数		第3次産業 従業者数	
		(事業所)	構成比	(事業所)	構成比		(人)	構成比	(人)	構成比
中海・宍道湖・大山圏域	34,004	5,662	16.7%	28,114	82.7%	322,275	69,051	21.4%	249,790	77.5%
米子市	7,681	1,043	13.6%	6,615	86.1%	76,079	12,825	16.9%	62,972	82.8%
境港市	1,640	269	16.4%	1,347	82.1%	16,493	4,289	26.0%	11,549	70.0%
松江市	11,276	1,683	14.9%	9,537	84.6%	110,431	17,355	15.7%	92,218	83.5%
出雲市	9,082	1,794	19.8%	7,239	79.7%	82,165	22,773	27.7%	58,718	71.5%
安来市	1,966	411	20.9%	1,543	78.5%	18,194	6,928	38.1%	10,829	59.5%
鳥取県西部7町村	2,359	462	19.6%	1,833	77.7%	18,913	4,881	25.8%	13,504	71.4%
新潟都市圏	55,381	10,519	19.0%	44,445	80.3%	549,200	128,503	23.4%	415,107	75.6%
金沢都市圏	41,454	8,518	20.5%	32,760	79.0%	402,035	88,584	22.0%	311,869	77.6%
福井都市圏	37,107	9,419	25.4%	27,493	74.1%	330,529	98,589	29.8%	229,847	69.5%

資料：総務省「経済センサス(平成21年)」

※2 市町村内総生産：一定期間(通常1年間)に市町村内の生産活動によって、新たに生み出された価値(付加価値)の総額。産出額(生産された財貨・サービスの総額)から中間投入額(生産の過程で原材料・光熱燃料・間接費等として投入された非耐久財及びサービス)を差し引いたもの。



(農業) 耕地面積は新潟都市圏に次ぐ規模、農業産出額は山陰両県の約4割を占める

本圏域の耕地面積は300km²で、日本海側の主要都市圏と比較すると新潟都市圏(704km²)に次ぐ規模です。米子市の弓ヶ浜半島や彦名干拓地、松江市の揖屋干拓地、島根県内随一の農業地帯である出雲平野や安来市の飯梨川・伯太川の下流域などに農地が広がっています。

平成18年の農業産出額^(※3)の合計は514億円で山陰両県の約4割を占めており、米、畜産、野菜が中心となっています。圏域内では、出荷量西日本一の米子市の白ねぎ、松江市の干し柿、出雲市のぶどう、安来市のタケノコなど、特色ある農産品も生産されています。

(水産業) 海面漁業の漁獲量は山陰両県の約4割を占める

本圏域の水産業は、日本海での沖合漁業・沿岸漁業、中海・宍道湖の内水面漁業が盛んです。平成22年の海面漁業の漁獲量は、約8万トンで山陰両県の4割を占めています。また、平成23年の島根県のしじみの漁獲量は2,358トンで、青森県(3,672トン)に次いで全国2位です。(※H22年は全国1位、シェア34%) 圏域内には、漁獲量全国1位(平成23年)の境港市のベニズワイガニ、クロマグロなどの水産物や水産加工品、松江市・出雲市のしじみなど、特色ある水産品があります。

■農業・水産業の主要指標

	農業産出額 (千万円)	海面漁業漁獲量 (t)
中海・宍道湖・大山圏域	5,142	79,516
山陰両県シェア	39.3%	42.5%
米子市	667	353
境港市	106	55,932
松江市	591	20,423
出雲市	1,426	2,150
安来市	604	19
鳥取県西部7町村	1,748	639
全 国	829,000	4,121,038
鳥取県	6,850	65,957
島根県	6,250	120,992

資料：農林水産省「生産農業所得統計(平成18年)」
農林水産省「海面漁業生産統計調査(平成22年)」



多伎いちじく



YSSヤスキハガネ



境港のマグロの水揚げ

※3 農業産出額：農産物の生産量から中間生産物(種子、飼料など)を除いた最終生産物の総生産額。以前の「農業粗生産額」を平成13年より「農業産出額」に名称変更。市町村別の金額公表は平成18年まで。

(製造業) 従業者数・製造品出荷額等は山陰両県の約5割を占める

平成22年の本圏域の製造業の従業者数は37,926人、製造品出荷額は9,264億円と山陰両県の約5割を占めています。

圏域内には、出雲市の情報通信機械器具や電子部品・デバイス・電子回路、安来市の鉄鋼業、米子市のパルプ・紙・紙加工品、境港市の食料品、松江市の生産用機械器具などの製造業が集積しています。このうち安来市の製造業の労働生産性(従業員1人あたり付加価値額)は全国平均を上回っています。また、YSSヤスキハガネ^(※4)、Ruby^(※5)、水産資源を活用した健康食品・機能性食品、氷温技術、水の浄化技術、バイオ技術を活用した新産業など特色あるものづくり産業や最先端技術を有する企業・研究機関が集積しています。

(商業) 小売業の年間販売額・売場面積は山陰両県の約5割を占める

平成19年調査における本圏域の小売業の年間商品販売額は7,136億円、売場面積は986,636m²であり、いずれも山陰両県の5割を占めています。卸売業・小売業の事業所数、従業者数を日本海側の主要都市圏と比較すると、新潟都市圏域、金沢都市圏域、福井都市圏域に次ぐ規模となっています。

また、山陰両県における本圏域の小売業の吸引力指数^(※6)を平成19年商業統計調査の小売業年間商品販売額と平成22年国勢調査の人口を用いて算出すると1.03であり、圏域外から多くの買い物客が訪れていることが分かります。圏域内では、人口規模の大きい松江市、出雲市、米子市の販売額が多く、吸引力指数は米子市1.24、境港市1.07、松江市及び出雲市1.03の順となっています。

■製造業・商業の主要指標

	製造品出荷額等 (万円)	従業者1人あたりの 付加価値額 (万円/人)	小売業 年間商品販売額 (百万円)	小売業 売場面積 (m ²)
中海・宍道湖・大山圏域	92,642,908	815	713,622	986,636
山陰両県シェア	50.7%	-	52.2%	53.0%
米子市	13,904,199	601	191,728	283,992
境港市	6,463,970	615	39,315	68,950
松江市	11,441,930	706	224,966	269,316
出雲市	38,179,347	762	185,053	245,116
安来市	16,142,815	1,512	31,104	59,631
鳥取県西部7町村	6,510,647	697	41,456	59,631
全 国	28,910,768,325	1,313	134,705,448	149,664,906
鳥取県	84,277,056	863	635,614	886,263
島根県	98,400,244	858	731,753	976,395

資料：経済産業省「工業統計調査(平成22年)」、「商業統計(平成19年)」

(貿易)

本圏域には重点港湾に指定されている境港^{さかいこう}があり、日本海側では1位の輸入量を誇る原木をはじめ、木材チップ、金属機械工業品など多くの輸出入貨物が集積し、外国貿易の拠点となっています。

平成23年には「国際海上コンテナ」、「外航クルーズ(背後観光地クルーズ)」、「原木」の3機能で日本海側拠点港に選定され、中国、韓国、ロシアなど日本海対岸諸国との貿易を通じた圏域経済の発展が期待されています。

※4 YSSヤスキハガネ：YSSとヤスキハガネは日立金属株の登録商標です。日立金属株安来工場が製造する高級特殊鋼の総称で、たたら製鉄の技術、精神を受け継いで今日に至っています。

※5 Ruby：世界的に注目が集まるオープンソースのプログラミング言語。開発者は松江市在住。

※6 吸引力指数：地域が外部から購買客を引き付ける力を表す指標。指数が1.0以上の場合は購買客を外部から引き付け、1.0未満の場合は外部に流出していると見ることができる。吸引力指数=構成市の商業人口(構成市の年間商品販売額÷山陰両県の人口1人あたり年間商品販売額)÷構成市の人口



■日本海側主要都市圏との比較(各産業の主要指標)

	農 業		水産業	製 造 業		商 業		
	耕地面積 (km ²)	農業産出額 (1,000万円)	海面漁業 漁獲量 (t)	製造品 出荷額等 (百万円)	製造業 従業者数 (人)	商業年間 商品販売額 (百万円)	商 業 事業所数 (事業所)	商 業 従業者数 (人)
中海・宍道湖・大山圏域	300	5,142	79,516	926,429	37,926	1,608,759	8,914	58,047
米子市	30	667	353	139,042	5,447	438,958	2,048	15,215
境港市	4	106	55,932	64,640	3,059	132,811	540	3,526
松江市	47	591	20,423	114,419	6,837	575,320	2,675	18,881
出雲市	81	1,426	2,150	381,793	14,573	344,951	2,533	14,663
安来市	41	604	19	161,428	5,178	62,627	540	2,687
鳥取県西部7町村	97	1,748	639	65,106	2,832	54,092	578	3,075
新潟都市圏	704	12,781	18,797	1,673,573	66,858	4,102,296	15,309	105,600
金沢都市圏	151	2,357	3,266	1,275,184	50,239	3,439,564	9,856	74,724
福井都市圏	300	3,724	9,505	1,555,793	58,811	1,892,445	9,345	59,250
富山都市圏	211	2,319	3,288	1,348,749	49,463	1,902,442	7,250	47,105
高岡都市圏	245	3,020	15,510	1,384,866	45,493	1,142,052	6,775	38,718
秋田都市圏	216	2,223	5,735	352,375	15,507	1,344,004	5,470	38,541
長岡都市圏	247	3,290	335	712,558	37,035	1,098,717	5,243	33,182
下関都市圏	78	1,347	12,279	570,958	15,673	680,519	3,904	24,488
鳥取都市圏	107	1,563	8,214	438,671	16,043	538,518	2,985	19,612
上越都市圏	209	2,304	310	643,734	20,054	515,150	3,403	19,924
酒田都市圏	221	3,493	2,781	239,687	10,134	370,616	2,339	12,661
鶴岡都市圏	207	2,953	3,932	274,744	13,282	270,107	2,217	12,240
舞鶴都市圏	20	274	4,341	172,552	3,759	186,433	1,397	8,059

資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計(平成22年)」、「生産農業所得統計(平成18年)」、「海面漁業生産統計調査(平成22年)」
経済産業省「工業統計調査(平成22年)」、「商業統計調査(平成19年)」

(5) 交通：圏域内外へ陸路・空路・海路の交通ネットワークを形成

本圏域では、鉄道や路線バス・コミュニティバスなどの公共交通機関や、国道・高速道路などの道路網の整備が進んでおり、おおむね都市間を結ぶネットワークが形成されています。

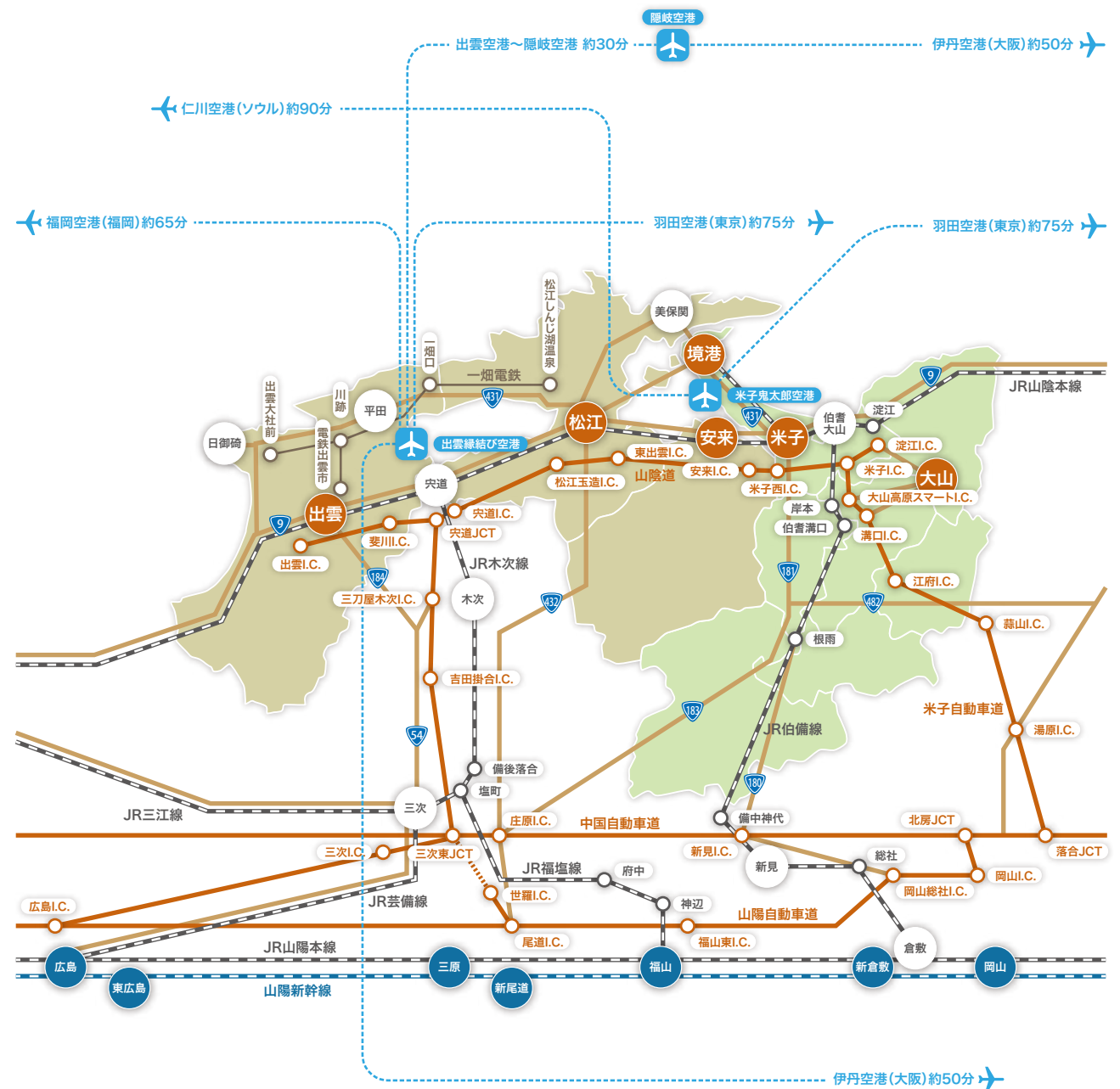
圏域内は、既に山陰両県の主要都市を東西に結ぶ山陰自動車道で結ばれています。また、中国横断道岡山米子線が、大阪府吹田市と山口県下関市を結ぶ中国縦貫自動車道と接続し、本圏域と他地域を結んでいます。さらに、松江市と広島県尾道市を結ぶ中国横断自動車道尾道松江線の開通によって、山陰～山陽～四国を結ぶ新たな高速道路ネットワークが整備されることから、産業経済の発展や観光振興、生活利便性の向上など、さまざまな効果が期待されます。

国内の他都市とは、米子鬼太郎空港及び出雲縁結び空港発着の空路や鉄道、高速道路などの陸路で結ばれています。一方、海外とは、境港からの国際定期コンテナ航路や環日本海国際フェリー、米子鬼太郎空港からの国際航空路線など、北東アジア地域につながる空路・海路の交通ネットワークがあります。

■圏域内外交通ネットワーク



■境港定期船運航図





(6) 観光：圏域内への観光入込客数は鳥取県内の約5割、島根県内の約7割を占める

本圏域には、神話や縁結びで有名な出雲市の「出雲大社」をはじめ、城下町の面影や茶の湯文化が残る国際文化観光都市・松江市、妖怪をモチーフにした境港市の「水木しげるロード」、米国の日本庭園専門誌で10年連続日本一に選ばれている安来市の「足立美術館」など優れた観光資源を有しています。また、豊かな自然に恵まれており、米子市の皆生・美保湾や中海でのマリンスポーツ、大山周辺でのサイクリングなど、スポーツ・ツーリズムの環境も整っています。

圏域内には、鳥取県内を訪れる観光客の約5割、島根県内を訪れる観光客の7割近くが訪れており、皆生温泉(米子市)や玉造温泉(松江市)など、良質の源泉や豊富な食材・郷土料理を提供する飲食・宿泊施設もあり、観光業は圏域の主要産業のひとつとなっています。また、空と海の国際定期航路(空：米子ーソウル、海：境港ー東海ーウラジオストク)のほか、境港に寄港する各国のクルーズ客船が増加したことにより、圏域を訪れる外国人観光客が増加しています。

■観光入込客数(実人数)の推移

(単位:千人)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23
鳥取県	9,196	9,054	9,197	9,823	11,224	11,209
米子・皆生温泉周辺	1,370	1,308	1,217	1,397	1,582	1,639
境港周辺	1,411	1,662	1,806	1,825	3,050	2,846
大山周辺	1,271	1,133	1,136	1,221	1,278	1,365
圏域内 計	4,052	4,103	4,159	4,443	5,910	5,850
県内シェア	44.1%	45.3%	45.2%	45.2%	52.7%	52.2%

※圏域内計は、大山町の一部(旧中山町)を除く
資料：鳥取県「鳥取県観光入込動態調査結果」

■観光入込客延べ数の推移

(単位:千人)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23
島根県	26,584	28,191	28,701	27,530	28,403	27,502
松江市	8,228	8,599	8,859	8,994	8,765	8,387
出雲市	8,373	9,280	9,268	8,388	8,994	8,693
安来市	1,472	1,421	1,430	1,339	1,581	1,371
圏域内 計	18,072	19,300	19,556	18,721	19,340	18,451
県内シェア	68.0%	68.5%	68.1%	68.0%	68.1%	67.1%

資料：島根県「島根県観光動態調査結果」

(7) 生活環境

①医療・福祉：施設や医師の集積は全国でも高水準

本圏域には、鳥取大学医学部附属病院、松江赤十字病院、島根県立中央病院、鳥取大学医学部附属病院など、多くの医療機関が集積しています。圏域全体の人口10万人あたりにおける病院病床数は1,617.0床、医師数は342.6人で、特に人口10万人あたりの医師数は全国平均の1.5倍と高水準です。特に構成自治体に着目して全国平均と比較すると、人口10万人あたりの医師数が米子市と出雲市では約2倍、人口10万人あたりの病床数が米子市と安来市では約1.5倍となっています。

また、本圏域には社会福祉施設数が362施設あり、山陰両県の施設数の4割を占めています。人口10万人あたりの社会福祉施設数は54.7施設で、全国平均を上回っているほか、安来市の人口10万人あたりの社会福祉施設数は全国平均の約2倍となっています。

②高等教育機関：山陰両県の高等教育機関が集積

本圏域には、島根大学(松江キャンパス・出雲キャンパス)や島根県立大学出雲キャンパス、同短期大学部(松江キャンパス、出雲キャンパス)、鳥取大学医学部、米子・松江の工業高等専門学校、さらに多くの専門学校など、山陰両県の高等教育機関が集積しています。これらの機関は多様な技術、ノウハウ、人材、設備などを保有しており、充実した教育・研究環境のなかで人材育成や研究開発が行われています。

(8) 地域のつながり・市民参画：人口に対する地縁団体数やボランティア活動率は全国上位

本圏域では、自治会活動などの地縁型組織はもとより、さまざまなNPOやボランティア団体といったテーマ型組織が、多様な地域活動や市民活動を展開しています。

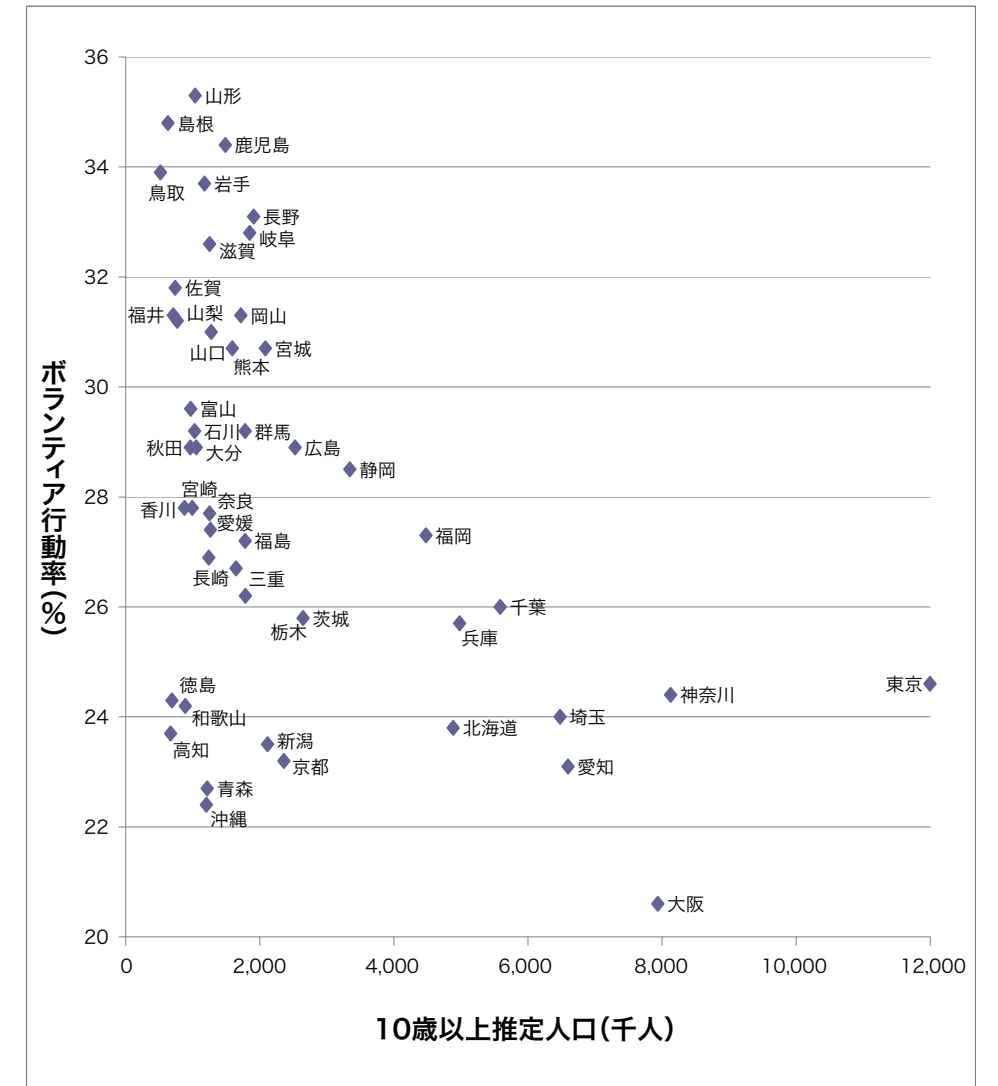
都道府県別の人口千人あたりの地縁団体数は、島根県が全国1位、鳥取県が全国7位と地域的な共同活動を行う団体数が多い地域といえます。また、自由時間などにボランティア活動を行った人の割合をみると、島根県は全国2位、鳥取県は全国4位とボランティア活動への参加率も高くなっています。本圏域は地域のつながりが深く、近隣とのつきあいや社会的な交流が盛んであり、地域住民の相互信頼や相互扶助の意識が高いことのあらわれともいえます。

■都道府県別の地縁団体数(人口千人あたり)

順位	都道府県	地縁団体数(団体)
1	島根県	8.7
2	徳島県	7.2
3	香川県	6.9
4	高知県	6.1
5	岡山県	5.8
6	山口県	5.0
7	鳥取県	4.9
8	福井県	4.8
9	秋田県	4.8
10	茨城県	4.5

(注)上位10 都道府県のみ表示
資料：総務省「地縁による団体の認可事務の状況等に関する調査結果(平成20年)」

■都道府県別のボランティア活動者率



(注)ボランティア活動者率とは、過去1年間に活動を行った10歳以上の者の割合
資料：総務省「社会生活基本調査報告(平成23年)」



3. 圏域に関する意見聴取及び現状分析

(1) 圏域アンケート調査

ビジョンの策定にあたり、圏域課題や取り組みに対するニーズを把握するため、圏域内の企業・団体・NPOなどを対象に「中海・宍道湖・大山圏域の振興に関するアンケート調査」を実施しました。

①実施概要

【実施期間】	平成24年9月	
【配付数】	188件	
【配付先(区分)】	観 光	<input type="checkbox"/> 観光協会・協議会など <input type="checkbox"/> 旅館組合・民間観光施設・民間観光団体など <input type="checkbox"/> 旅行者
	産 業	<input type="checkbox"/> 商工団体 <input type="checkbox"/> 雇用関係団体 <input type="checkbox"/> 農協・漁協 <input type="checkbox"/> 製造業者 <input type="checkbox"/> 運輸業者 <input type="checkbox"/> 海外商談会補助金交付団体 <input type="checkbox"/> 金融機関
	環 境	<input type="checkbox"/> 財団法人 <input type="checkbox"/> NPO法人 <input type="checkbox"/> 環境に関する技術などを有する事業者
	歴史・文化・スポーツ	<input type="checkbox"/> 財団法人 <input type="checkbox"/> NPO法人 <input type="checkbox"/> 関連団体
	医療福祉	<input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会
	教 育	<input type="checkbox"/> 高等教育機関
	マスコミ	<input type="checkbox"/> 地元報道機関
【回収数】	117件	
【回収率】	62.2%	

このほか、住民の方々の幅広いご意見・ご提言を反映するため、ビジョンの素案に対するパブリックコメント(意見募集)を実施しました。

■パブリックコメント(意見募集)

募集期間	平成24年12月25日～平成25年1月18日
資料公開場所	市長会・各市のホームページ、各市役所
意見提出者数	4件
意見の項目数	9項目

また、圏域がめざすべき方向性・目標等について議論を深めるとともに、圏域で活動する各種団体・事業者、また行政及び住民の方々がそれを広く共有し、共通認識をもつ機会としてシンポジウムを開催しました。

■平成24年度中海・宍道湖・大山圏域市長会シンポジウム

開催日時	平成25年2月15日
テーマ	「人がつながる 神話の国から 未来へつなげる」
構 成	第1部 基調講演 演題:「あるものを生かす『地域力』の創造《ひと・もの・絆》」 講師:椎川 忍氏 (総務省地域力創造・緑の分権改革アドバイザー、前自治財政局長) 第2部 パネルディスカッション テーマ:「圏域の将来像とその実現に向けて」
アンケート回収数	130枚 経済団体関係者 16 観光関係者 5 環境団体関係者 1 自治体職員 62 議会議員 8 その他・無記名 38

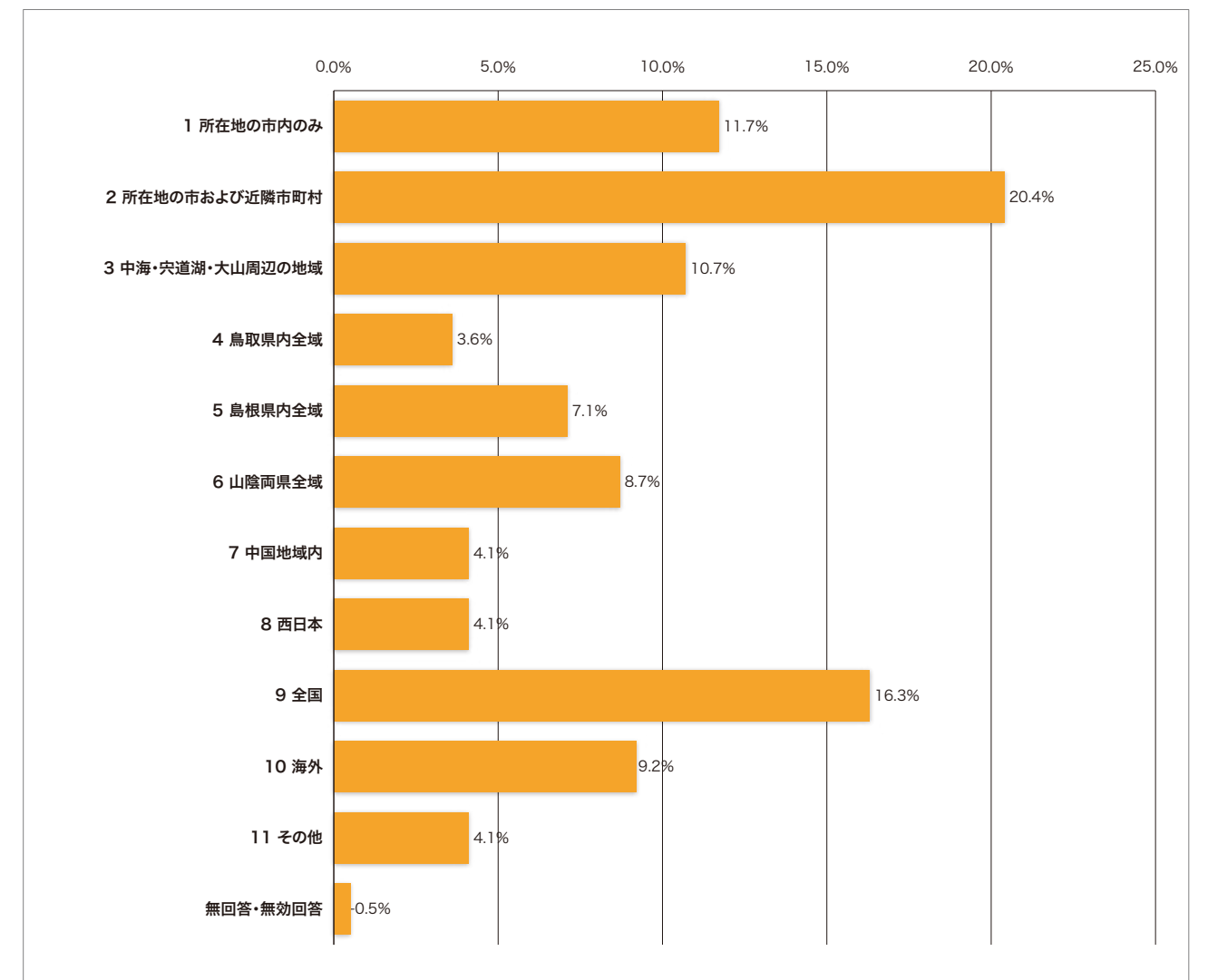
②集計結果

1) 主な事業エリア・活動エリア(販売先地域、活動範囲、集客エリアなど)

回答者(企業・団体)の主な事業活動エリアは、「所在地の市および近隣市町村」が約2割と最も多く、次いで「全国」約1.5割でした。

圏域内までの範囲を主な事業活動エリアとする事業者の合計割合は、およそ4割でした。

項 目	回答数(件)	割 合(%)
1 所在地の市内のみ	23	11.7%
2 所在地の市および近隣市町村	40	20.4%
3 中海・宍道湖・大山周辺の地域	21	10.7%
4 鳥取県内全域	7	3.6%
5 島根県内全域	14	7.1%
6 山陰両県全域	17	8.7%
7 中国地域内	8	4.1%
8 西日本	8	4.1%
9 全国	32	16.3%
10 海外	18	9.2%
11 その他	8	4.1%
無回答・無効回答	1	0.5%
総 計	196	100.0%

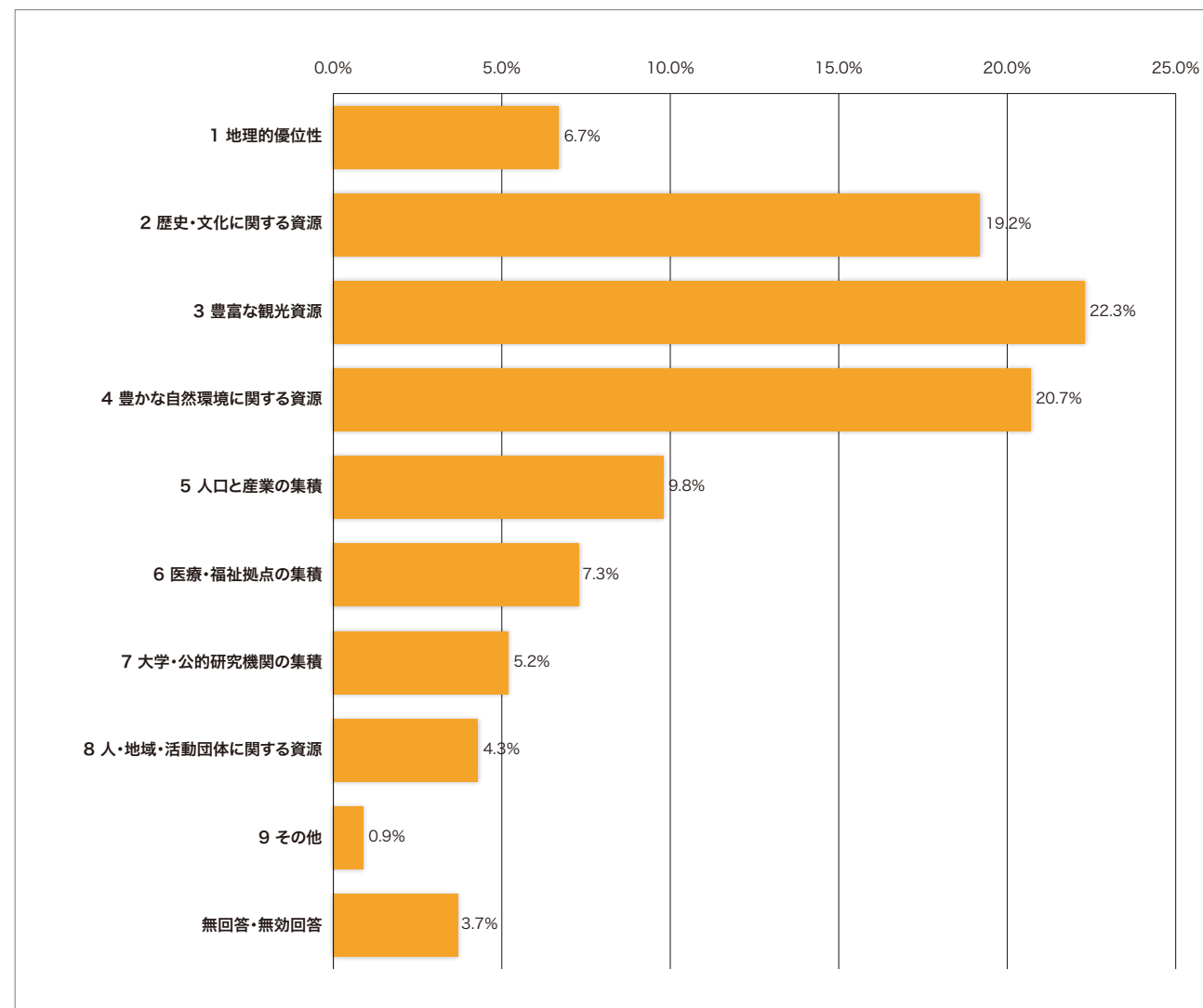




2) 圏域振興において積極的に活用すべきと思う資源(3つまで複数回答可)

圏域振興において活用すべき資源は、「観光資源」「自然環境に関する資源」「歴史・文化に関する資源」の順で多く、それぞれ約2割を占めました。

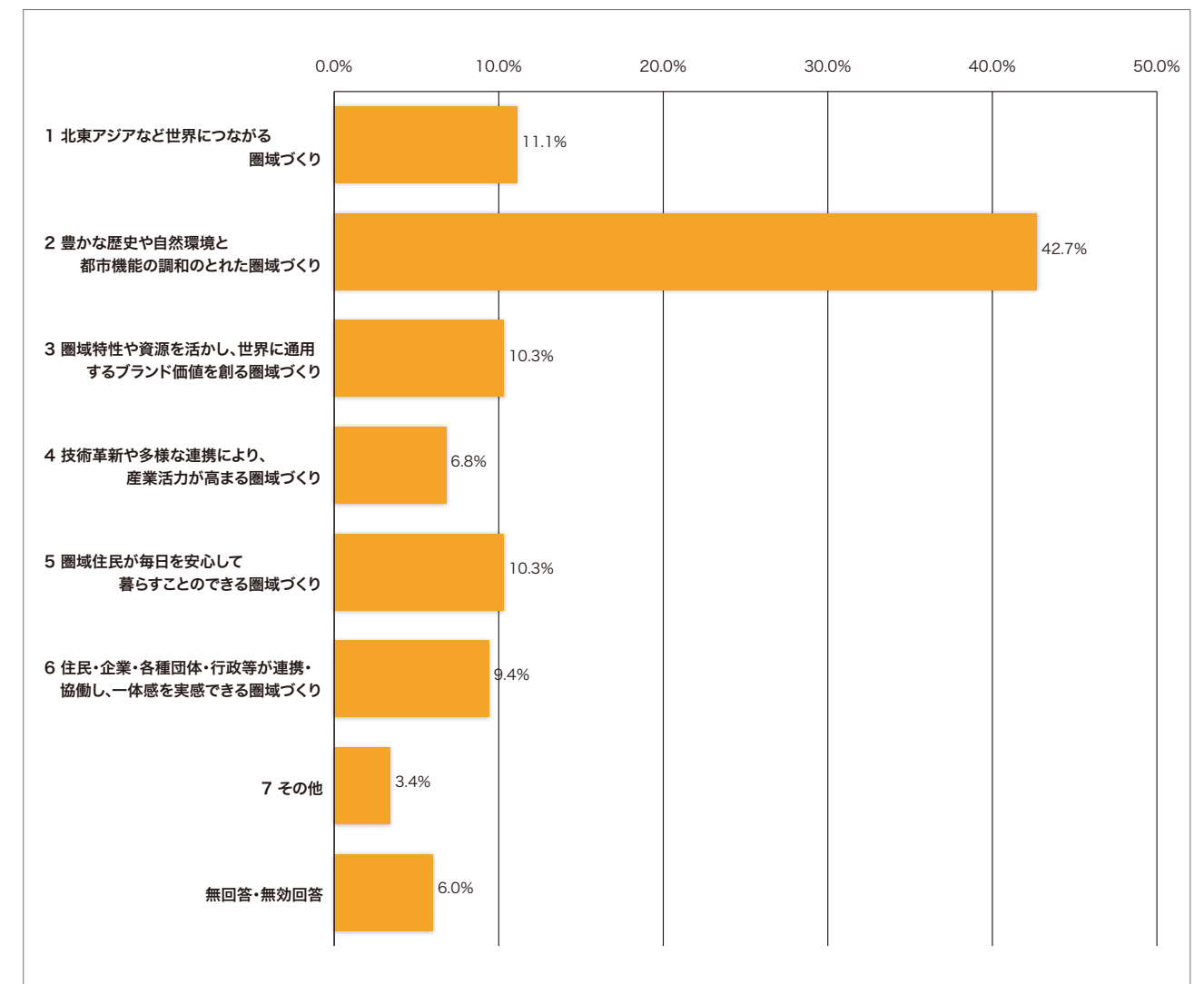
項目	回答数(件)	割合(%)
1 地理的優位性	22	6.7%
2 歴史・文化に関する資源	63	19.2%
3 豊富な観光資源	73	22.3%
4 豊かな自然環境に関する資源	68	20.7%
5 人口と産業の集積	32	9.8%
6 医療・福祉拠点の集積	24	7.3%
7 大学・公的研究機関の集積	17	5.2%
8 人・地域・活動団体に関する資源	14	4.3%
9 その他	3	0.9%
無回答・無効回答	12	3.7%
総計	328	100.0%



3) 圏域の将来像としてもっともイメージに近いもの

圏域の将来像としては、「豊かな歴史や自然環境と都市機能の調和のとれた圏域づくり」がもっとも多く4割以上を占める結果となりました。その他の項目は、いずれも1割程度にとどまっています。

項目	回答数(件)	割合(%)
1 北東アジアなど世界につながる圏域づくり	13	11.1%
2 豊かな歴史や自然環境と都市機能の調和のとれた圏域づくり	50	42.7%
3 圏域特性や資源を活かし、世界に通用するブランド価値を創る圏域づくり	12	10.3%
4 技術革新や多様な連携により、産業活力が高まる圏域づくり	8	6.8%
5 圏域住民が毎日を安心して暮らすことのできる圏域づくり	12	10.3%
6 住民・企業・各種団体・行政等が連携・協働し、一体感を実感できる圏域づくり	11	9.4%
7 その他	4	3.4%
無回答・無効回答	7	6.0%
総計	117	100.0%

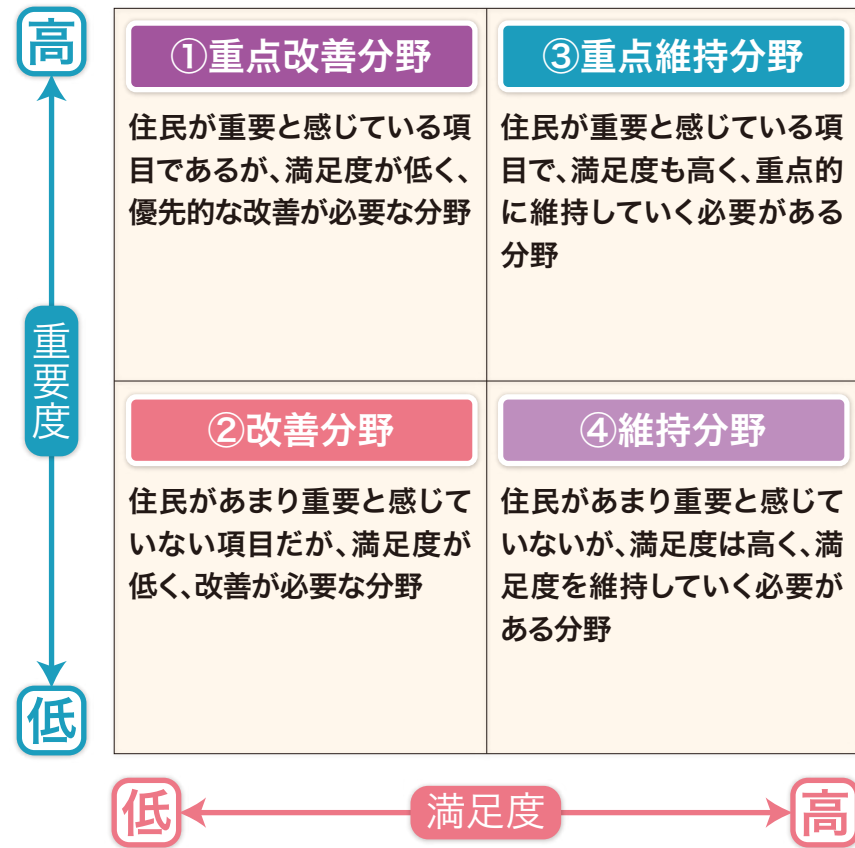




＜アンケート調査結果に基づく圏域住民ニーズ分析手法「住民ニーズマップ(CSグラフ)」＞

圏域住民のニーズ分析にあたり、満足度と重要度に基づく「住民ニーズマップ(CS グラフ)」を作成しました。「住民ニーズマップ(CS グラフ)」では、上下に重要度を、左右に満足度を設定し、算式に基づき分布位置を表示しています。なお、本ビジョンでは、特に①重点改善分野③重点維持分野の領域に着目して分析を行いました。

「住民ニーズマップ(CSグラフ)」の見方



※参考 満足度・重要度の算出法

選択項目を得点化し、平均値を求め、満足度と重要度を数値化することによって、項目ごとに比較できるようにしています。

□算式(加重平均)

$$\text{満足度} = \{(\text{「満足」の数} \times 10) + (\text{「どちらかといえば満足」の数} \times 5) + (\text{「どちらかといえば不満」の数} \times -5) + (\text{「不満」の数} \times -10)\} \div \text{「無回答を除く回答者の数」}$$

4)事業・活動を行う上での圏域の現状に対するニーズ

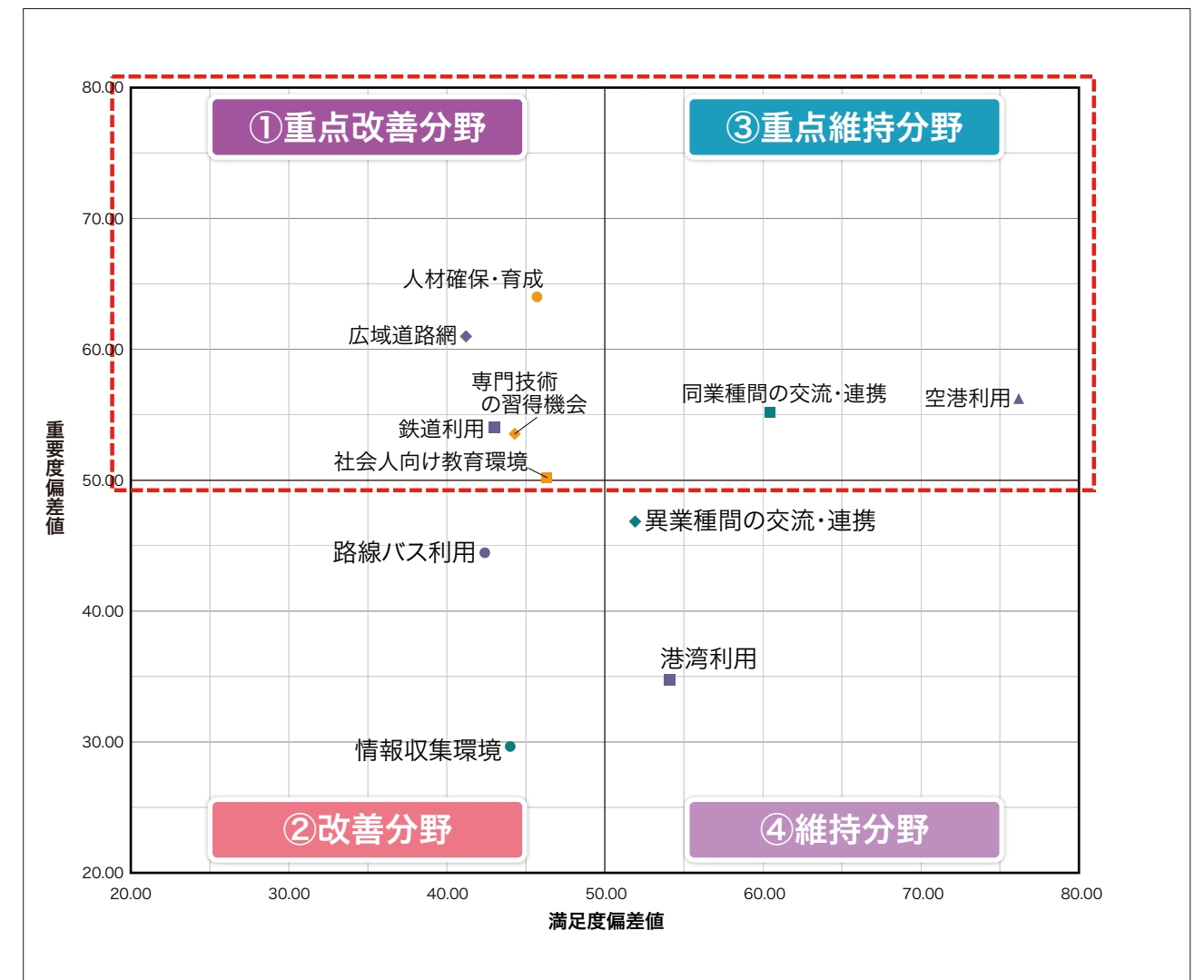
※点線囲み内は重要度の高い項目が分布する領域

■重点改善分野に該当した項目

- 『人材』に関する項目
「人材確保・育成」「専門技術の習得機会」「社会人向け教育環境」
- 『交流・連携』に関する項目
なし
- 『交通インフラ』に関する項目
「広域道路網」「鉄道利用」

■重点維持分野に該当した項目

- 『人材』に関する項目
なし
- 『交流・連携』に関する項目
「同業種間の交流・連携」
- 『交通インフラ』に関する項目
「空港利用」





5) 圏域振興のために必要な施策に対するニーズ

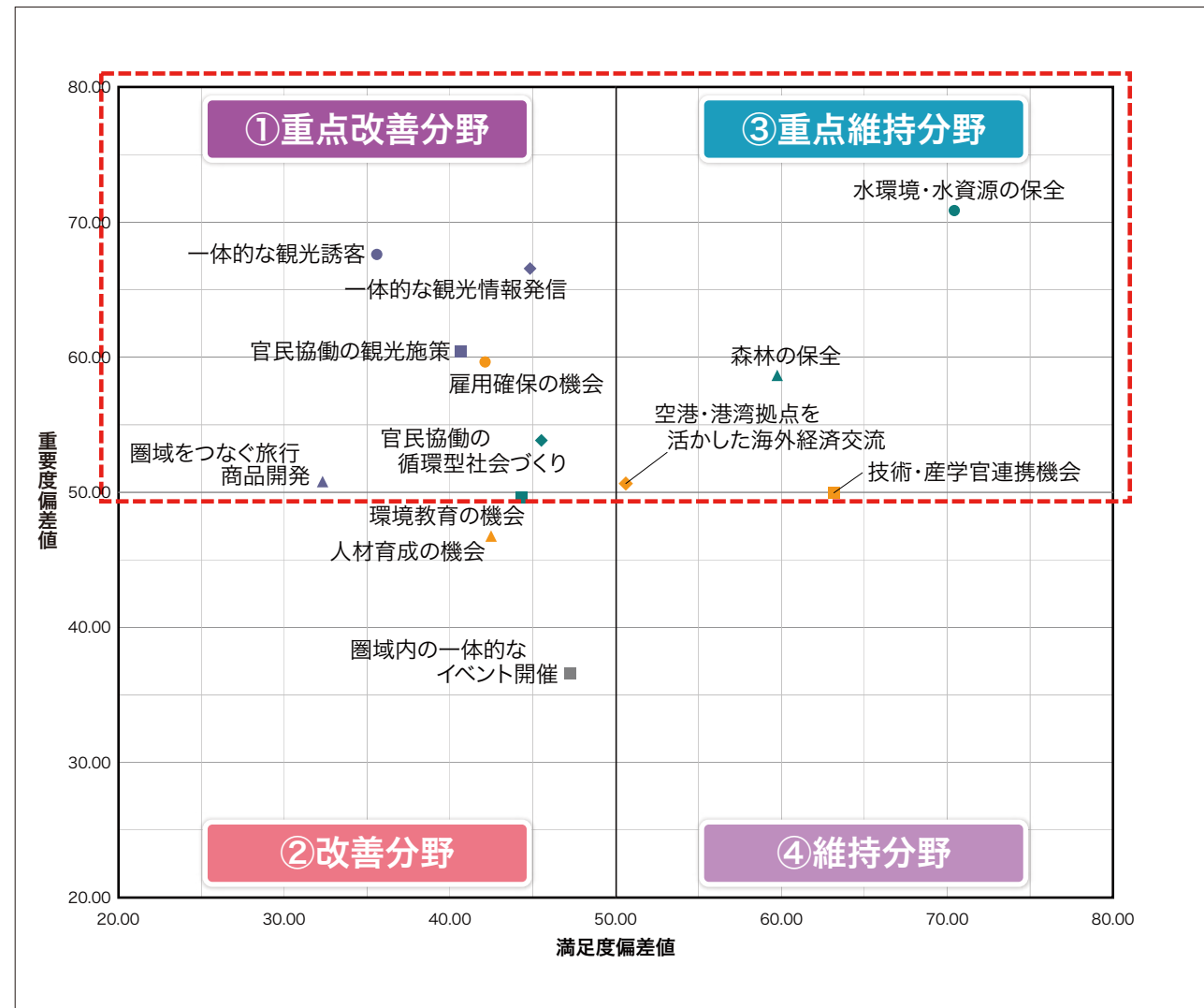
※点線囲み内は重要度の高い項目が分布する領域

■重点改善分野に該当した項目

- 『観光振興』に関する項目
「一体的な観光誘客」「一体的な観光情報発信」「官民協働の観光施策」「圏域をつなぐ旅行商品開発」
- 『産業振興』に関する項目
「雇用確保の機会」
- 『環境保全』に関する項目
「官民協働の循環型社会づくり」

■重点維持分野に該当した項目

- 『観光振興』に関する項目
該当なし
- 『産業振興』に関する項目
「空港・港湾拠点を活かした海外経済交流」「技術・産学官連携機会」
- 『環境保全』に関する項目
「水環境・水資源の保全」「森林の保全」



(2) 圏域の現状に関するヒアリング結果

ビジョンの策定にあたり、本圏域で広域的に活動する各種団体にヒアリング調査を実施し、現況把握及び圏域振興への提言を集約・整理しました。

①実施概要

【実施期間】	平成24年9月～10月
【実施団体数】	11団体(観光分野・産業分野・運輸交通分野・環境分野)

②圏域の優位性に関する主な意見

1) 人口

- 日本海側有数の人口集積圏域である優位性を圏域振興に活かすべき。

2) 自然環境

- 本圏域の特徴的な資源として、自然環境、特に「ラムサール条約登録湿地」である中海・宍道湖に代表される水辺の資源や森林資源がある(複数)。

3) 産業振興(観光を除く産業)

- 北東アジアへのゲートウェイとして日本海側の拠点港に選定されている境港さかいこうの機能を充実させ、誘客・物流両面での拠点機能の強化を図ることが重要である。

4) 観光振興

【観光資源の連携】

- 中海・境港・松江城下・宍道湖・出雲古代文化・芸術・大山など、多様で豊富な観光資源を有している(複数)。

【着地型観光^(※7)】

- 自然、歴史・文化といった魅力ある観光スポットを「オンパク^(※8)」手法などを活かしてつなぐ、着地型観光、まち歩き型観光の推進が有効。
- 中国横断自動車道 尾道松江線開通により広域観光推進の基盤が整うことから、この機を捉えた圏域情報の発信と誘客活動、商品開発などに力を入れるべきである(複数)。

5) 社会・交通基盤に関する意見

- 圏域内の空港・港湾という優位性を多面的に活用するとともに、一層の利便性向上を図る必要がある。

6) 広域連携

- 意見なし

※7 着地型観光:観光客や旅行者を受け入れる地域が自分たちの持つ観光資源を活かして企画する旅行形態。

※8 「オンパク」手法:地域のひと場所の魅力を体験するイベント。



③圏域の課題に関する主な意見

1)人口

- 意見なし

2)自然環境

- 自然環境保全活動の広域連携、主体間連携が不可欠であるが、地域間・団体間の調整が難しいのが現状であり、広域的なイニシアチブをとる機関が必要である。
- 圏域内で自然環境保全・活用に取り組む団体の活動情報、イベント情報などを共有する仕組みづくりや一体的な情報発信が必要である。

3)産業振興(観光を除く産業)

- 産業振興・雇用創出は圏域共通の重要テーマであり、人材の確保・育成、就業支援対策の充実を図る必要がある。
- 各市の産業特性を活かした連携を考えることが必要である。

4)観光振興

【観光資源の連携】

- 圏域観光のネットワーク化を推進するため、圏域が一体となって周遊観光を仕掛ける戦略が必要である。

【2次交通対策】

- 東西に長い圏域の地理的特性を踏まえ、タクシーやレンタカーを活用した2次交通の仕組みづくりが重要である(複数)

【情報発信・誘致活動】

- 圏域が一体となった観光情報発信の充実、各市の観光案内所の機能強化が重要である(複数)。

【観光振興体制】

- 観光に従事する優れた人材の確保や育成を圏域が一体的に進める必要がある(複数)。
- 広域観光に関しては類似組織が多く、役割分担の明確化が必要である(複数)。
- 市長会との連携強化により、圏域観光振興に取り組むことが重要である(複数)。

5)社会・交通基盤に関する意見

- 高速道路網、圏域を循環する道路網の整備が圏域の課題である(複数)。
- 圏域内の空港・港湾という優位性を多面的に活用するとともに、さらに拠点性、利便性の向上を図る必要がある。
- 空港・港湾の拠点性を2次交通の充実対策と効果的に組みあわせ、観光における移動の利便性を向上させる必要がある(複数)。

6)広域連携

- 県境・自治体間の制度などの違いをできるだけ補完しあい、各種支援制度や情報交流が円滑に実施されるよう、広域行政による連携施策を推進する必要がある(複数)。

(3)意見聴取結果にみる圏域の優位性・課題・意向

圏域における意見聴取結果に基づき、圏域振興に活用すべき「優位性」と解決を図るべき「課題」、「圏域の将来的な発展方向に関する要望・意向」の3つの要素を整理しました。

①圏域振興において活用すべき優位性

「豊富な観光資源」「豊かな自然環境」「歴史・文化資源」「産業連携の機会」「空港・港湾」「北東アジアとの近接性」といった優位性を活かした圏域づくりが求められています。

1) アンケート調査結果

a 「積極的に活用すべき資源」上位3項目	●豊富な観光資源 ●豊かな自然環境に関する資源 ●歴史・文化に関する資源
b CSグラフ「重要維持分野」に分布した項目	●水環境・水資源の保全 ●森林の保全 ●同業種間の交流・連携 ●技術・産学官連携機会 ●空港・港湾拠点を活かした海外経済交流 ●空港利用

2) ヒアリング調査結果

優位性回答が複数あった項目	●自然環境:水辺の資源・森林資源 ●観光振興:観光資源の連携
---------------	--------------------------------

圏域の優位性

- 豊富な観光資源 ●自然環境 ●歴史・文化 ●産業集積 ●空港・港湾 ●北東アジアとの近接性

②圏域振興において改善すべき課題

「観光振興」「産業振興」「交通ネットワークの整備」「広域連携・官民協働」「循環型社会づくり」のニーズに応える圏域づくりが求められています。

1) アンケート調査結果

a CSグラフ「重要改善分野」に分布した項目	●一体的な観光誘客 ●一体的な観光情報発信 ●官民協働の観光施策 ●圏域をつなぐ旅行商品開発 ●人材確保 ●専門技術の習得機会 ●社会人向け教育環境 ●雇用確保の機会 ●鉄道利用 ●広域道路網 ●官民協働の循環型社会づくり
------------------------	--

2) ヒアリング調査結果

課題回答が複数あった項目	●観光振興(2次交通対策)(一体的な観光情報発信)(観光案内体制強化) 〔観光産業を支える人材確保・育成〕 〔観光関係機関の役割分担の明確化〕 〔市長会と広域観光関連機関の連携強化〕 ●社会・交通基盤:(高速交通網・圏域循環道路網整備) ●広域連携:(広域連携施策の推進)
--------------	---

圏域の課題

- 一体的な観光振興 ●産業連携 ●交通ネットワークの整備 ●広域連携・官民協働 ●循環型社会づくり



③圏域の将来的な発展方向に関する要望・意向

アンケート調査における圏域の将来的な発展方向に関する設問では、「豊かな歴史や自然環境と都市機能の調和のとれた圏域づくり」がもっとも多く、全体の4割以上を占めました。

このほか、「北東アジアなど世界につながる圏域づくり」「圏域特性や資源を活かし、世界に通用するブランド価値を創る圏域づくり」「圏域住民が毎日を安心して暮らすことのできる圏域づくり」の各項目が、1割以上の回答割合を集めています。

圏域の将来的な発展方向に関する要望・意向

- 豊かな歴史や自然環境と都市機能の調和する圏域
- 北東アジアなど世界につながる圏域
- 圏域特性や資源を活かし、世界に通用するブランド価値を創る圏域
- 圏域住民が毎日を安心して暮らすことのできる圏域

圏域の優位性

- 豊富な観光資源
- 自然環境
- 歴史・文化
- 産業集積
- 空港・港湾
- 北東アジアとの近接性

圏域の課題

- 一体的な観光振興
- 産業連携
- 交通ネットワークの整備
- 広域連携・官民協働
- 循環型社会づくり

圏域の将来的な発展方向に関する要望・意向

- 豊かな歴史や自然環境と都市機能の調和する圏域
- 北東アジアなど世界につながる圏域
- 圏域特性や資源を活かし、世界に通用するブランド価値を創る圏域
- 圏域住民が毎日を安心して暮らすことのできる圏域

第3章

圏域発展に向けた基本方向と将来像

1. 基本方向設定にあたっての視点

ビジョンの基本方向設定にあたっては、圏域の特徴、住民が考える圏域の優位性と課題、さらには圏域の将来的な発展方向に関する要望・意向から見えてくるすがたを重視し、以下の3つの視点から検討を行いました。

(1) 本圏域の優位性を活かす視点

圏域全体の特徴と優位性を活かす視点から基本方向を設定します。

(2) 圏域の有機的な連携による圏域の定住環境の充実・活力向上の視点

圏域共通の政策課題を踏まえ、構成自治体の優位性や特性を有機的につなぐことで、圏域全体の定住環境の充実と活力の向上をめざす視点から基本方向を設定します。

(3) 圏域が一体となり、力を合わせて目標を実現する視点

圏域に暮らす住民、各種団体、事業者が目標を共有し、力をあわせて成果達成をめざす、協働の視点から基本方向を設定します。

2. 基本方向

ビジョンの基本方向は以下のとおりとします。

- 基本方向 **1** **活力にあふれる圏域づくり** [産業振興]
 1. 力強い産業圏域の形成
 2. 圏域内外を結ぶ交通ネットワークの充実
 3. 北東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用
- 基本方向 **2** **訪ねてみたい圏域づくり** [観光振興]
 1. 圏域観光の魅力向上
 2. 圏域観光ネットワークの形成
 3. インバウンド観光の推進
 4. 圏域観光体制の充実
- 基本方向 **3** **住みたくなる圏域づくり** [環境の充実]
 1. 自然環境の保全と活用
 2. 歴史・文化の継承と活用
 3. 安心して暮らすことのできる環境の充実
- 基本方向 **4** **ともに歩む圏域づくり** [連携と協働]
 1. 人材確保・育成の体制づくり
 2. 人材・活動団体データベースの共有と活用
 3. 情報共有と連携



基本方向 1 活力にあふれる圏域づくり 【産業振興】

- 1. 力強い産業圏域の形成
- 2. 圏域内外を結ぶ交通ネットワークの充実
- 3. 北東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用

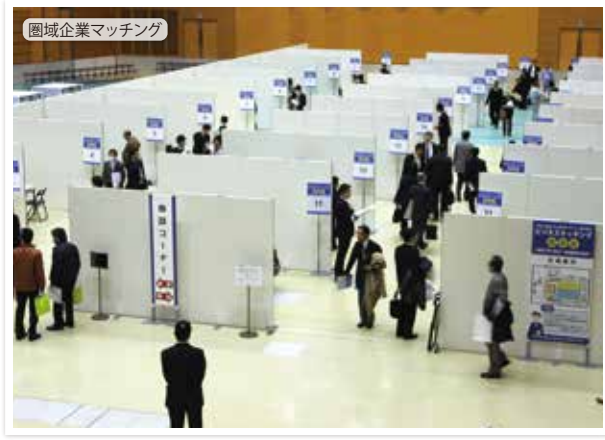
本圏域は、重要港湾で日本海側の拠点港に選定されている境港、米子鬼太郎空港、出雲縁結び空港などの交流と物流の拠点性を備えており、北東アジアの国々に向けたゲートウェイとして、文化・経済の両面で発展を続けています。

また、国内他地域とは、空路や鉄道・高速道路などで結ばれていますが、中国横断自動車道尾道松江線の開通によって、山陰～山陽～四国を結ぶ新たな交通ネットワークも整備されます。

一方、本圏域では産学官連携などを活かした先端技術の開発が進むとともに、山陰地方屈指の製造業拠点が形成されています。

さらに、豊富な農林水産品を有していることから、今後、圏域内外でのいっそうの認知度向上及び販路拡大が期待されています。

こうした優れた都市基盤・産業基盤を活かすとともに、高速道路をはじめとする社会基盤整備の機会を捉え、圏域内外との交流と、広範囲での経済活動機会を創出することにより、活力にあふれる圏域づくりをめざします。



取り組みの方向

1. 力強い産業圏域の形成

- Ruby、氷温技術などの先端技術分野や精密機器、YSSヤスキハガネに代表される製造業の集積を活かした圏域内の産業振興を図るとともに、圏域内企業の相互交流・ビジネスマッチングの促進など、広域的な産業間連携をめざします。
- 圏域の特徴ある農林水産業の一体的な振興を図るため、山陰最大の消費地であることを活かした地産地消に関する事業連携や圏域内の食品製造業や観光との連携強化により、広域的な食関連産業の形成をめざします。
- 異分野・異業種連携、圏域に集積する高等教育機関・公的研究機関との連携、研究開発型産業や地域資源の高度活用による新産業の創出をめざします。

2. 圏域内外を結ぶ交通ネットワークの充実

- 圏域産業の振興を図る上で必要となる『ヒト・モノ』の移動や流通のいっそうの利便性向上に向け、中国横断自動車道岡山米子線の4車線化と境港からの物流に対応した高速道路ネットワークの構築や、「境港出雲道路」・「江府三次道路」の地域高規格道路計画の早期実現、米子市と安来市を結ぶ中海架橋の整備促進などについて、圏域が一体となって関係機関に要望するなど、さらなる圏域内の交通ネットワークの充実をめざします。

- 大消費地に向けた販路拡大をはじめ、圏域内産業の振興を図る上で、他の都市圏との交通ネットワークの充実は欠かせないものです。中国横断自動車道尾道松江線や中国横断自動車道岡山米子線をはじめ、圏域と山陽・関西地域など圏域と他地域を結ぶ広域的な交通利便性の向上をめざします。

3. 北東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用

- 空と海の国際定期航路(空:米子-ソウル、海:境港-東海-ウラジオストク)が就航する北東アジアへのゲートウェイ機能を活かし、圏域内産業への多様な経済効果の創出をめざします。
- 長期的な展望のもと、北東アジアに向けた日本海側の物流拠点である境港のさらなる整備を促進し、いっそうの利用拡大をめざします。



基本方向

2 訪ねてみたい圏域づくり 【観光振興】

- 1. 圏域観光の魅力向上
- 2. 圏域観光ネットワークの形成
- 3. インバウンド観光の推進
- 4. 圏域観光体制の充実

本圏域は、特徴的な自然や古代からの歴史・文化、世界的に高い評価を受ける美術館やアニメコンテンツをはじめとする新たに創造された芸術文化など、魅力ある観光資源を豊富に有する圏域です。

こうした観光資源を活かし、相互の連携と一体的な観光振興体制づくり、インバウンド対策の充実、周遊・ネットワークの仕組みづくりなどに取り組む必要があります。その上で、一体性のある観光・交流活動の展開により、国内外に対して、魅力に溢れ、訪ねてみたい圏域づくりをめざします。



取り組みの方向

1. 圏域観光の魅力向上

- 観光入り込みに伴う圏域内への経済波及効果の拡大をめざし、圏域観光関連調査結果に基づいた、一体的な観光振興に取り組みます。
- 近年のニューツーリズム^(※9)に代表される、新たな観光形態や旅行者ニーズへの対応を図り、旅行業者や交通事業者、観光関連施設などと連携した魅力的で集客力のある周遊旅行商品の開発を促進します。
- 圏域の魅力ある歴史・文化・自然・地域産品など、多様な観光資源について、インターネットやマスメディア等を通じて一体的な情報発信に取り組みます。

2. 圏域観光ネットワークの形成

- 圏域内の観光資源を活かし、歴史や自然などに関連したテーマ別の観光ルートの開発など、周遊の魅力を備えた圏域観光ネットワークの形成に取り組みます。
- 中国横断自動車道岡山米子線、同自動車道尾道松江線など広域交通網の整備を見据え、広島空港や関西国際空港など、圏域外の空港からの誘客活動に取り組みます。

3. インバウンド観光の推進

- 空と海の国際定期航路(空:米子-ソウル、海:境港^{きまいこう}-東海-ウラジオストク)が就航する北東アジアへのゲートウェイ機能を活かし、圏域に訪れる外国人観光客の誘致、北東アジア観光ネットワークの形成をめざします。
- 米子鬼太郎空港、出雲縁結び空港という2つの空港を有する圏域の強みを活かし、国際チャーター便就航などインバウンド観光の推進につながる取り組みを支援します。
- 多言語による案内サイン・海外向けの観光情報の発信など、外国人観光客受け入れ環境の充実を図ります。

4. 圏域観光体制の充実

- 圏域内で広域観光振興に取り組む団体との情報共有や協力を進めることにより、一体的な圏域観光振興を推進する上で、必要な役割分担と効果的な連携体制の充実を図ります。

※9 ニューツーリズム:旅行先での人や地域との触れ合いを重要視する、新しいタイプの旅行。ヘルスツーリズム、スポーツ・ツーリズム、産業観光などが含まれる。



基本方向

3 住みたくなる圏域づくり

【環境の充実】

- 1. 自然環境の保全と活用
- 2. 歴史・文化の継承と活用
- 3. 安心して暮らすことのできる環境の充実

本圏域は、中海・宍道湖・大山に代表される豊かな自然環境と、利便性が高く安心して暮らすことのできる都市環境が一体的に形成された圏域です。また、神話の時代からの歴史と、そこに暮らす人々が育んできた多様な文化が息づく、成熟社会へ向かうわが国にあって理想的ともいえる環境が備わった圏域ともいえます。

こうした優れた暮らしの環境を活かし、心豊かな生活と経済活動が調和した、住みたくなる圏域づくりをめざします。



湖上観察学習



ユネスコ無形文化遺産「佐陀神能」



島根スサノオマジック・市長会スペシャルマッチ



新出雲風力発電所

取り組みの方向

1. 自然環境の保全と活用

- ラムサール条約に登録された中海・宍道湖をはじめとする豊かな水環境の保全と利活用を図るとともに、豊かな恵みをもたらす汽水域の水環境の改善に向け、関係機関と連携を図り、活動促進及び活動支援に取り組みます。
- 中国地方の最高峰である大山をはじめとする豊かな森林環境の保全と利活用を図るとともに、大山圏域の豊かな緑がもたらす恵みを活かしながら、都市に潤いをもたらす交流拠点をめざします。
- 自然と調和した環境に優しい圏域を構築するため、二酸化炭素を排出しない電気自動車(EV)の普及啓発や圏域での利用促進など、低炭素社会の実現に向けた取り組みを進めます。
- 自然環境教育に取り組む関係団体の情報共有と連携を進め、環境教育機会の充実をめざすとともに、この豊かな自然環境を私たち共通の財産として大切に育む気持ちを育みます。

2. 歴史・文化の継承と活用

- この圏域の古代からの歴史的一体性・文化的な結びつきを再認識するとともに、圏域各地に伝わる古代文化ゆかりの遺跡や中世・近世・近現代と各時代を彩る特徴的で貴重な有形・無形の文化を次代に継承します。
- 歴史資源や伝統文化をはじめ、食・スポーツ・芸能・芸術など、圏域に息づく多様な文化的資源を、観光・産業・教育・地域活動など、多様な領域で活用することにより、魅力ある圏域づくりをめざします。

3. 安心して暮らすことのできる環境の充実

- 美しい海・山・田園環境の保全と利便性の高い都市基盤整備の調和を図るとともに、自然災害に強く、安全で安心して暮らすことのできる環境づくりをめざし、圏域が一体となり、広域的な防災体制の構築に向けた取り組みを進めます。
- 全国的にみても高い水準にある圏域の医療環境や高等教育機関が集積する優れた教育環境、さらには、圏域住民の相互信頼、相互扶助の意識が高いことを踏まえ、安心して住み続けることのできる本圏域の暮らしやすさ、生活環境の豊かさを内外に発信していきます。



基本方向

4 ともに歩む圏域づくり

【連携と協働】

- 1. 人材確保・育成の体制づくり
- 2. 人材・活動団体データベースの共有と活用
- 3. 情報共有と連携

本ビジョンには、圏域の振興を図る上で圏域のさまざまな課題の解決や改善の必要性を記載しています。こうした課題解決のためには、自治体の枠組みを超えて、圏域が一体的に取り組むことが不可欠です。

また、圏域振興の取り組みを進める主体は、住民・NPOや各種団体、企業、行政などです。その上で、圏域振興の各主体が力を合わせ、交流と連携をベースとした新しい発想を生み出す視点で取り組むことで、真の圏域活力の向上を図ることが可能となります。

本圏域は、企業活動や行政において、これまで培われてきた交流・広域連携の素地があるとともに、地域活動やNPO・ボランティア団体などの社会活動も盛んで、それぞれの主体が責任と役割を持ちながら、地域社会を形成していこうとする意識の高い圏域ともいえます。

このような圏域の有する特性・優位性を活かし、本圏域が抱える課題に対して、情報共有と連携、相互補完を進め、ともに歩む圏域づくりをめざします。



松江武者行列



出雲駅伝



月の輪まつり

取り組みの方向

1. 人材確保・育成の体制づくり

- 就職説明会やUJIターン募集活動、また、各分野での人材育成機会の情報共有を進めるとともに、それらの共同開催を検討するなど、優れた人材の確保と育成に取り組めます。
- 同業種間及び異業種間交流や、さまざまな分野・団体間での交流、情報共有を進める中で、圏域を担う人材の交流も進め、優れた人材の育成とその人材が圏域のさまざまな分野で活躍できる仕組みづくりを推進します。

2. 人材・活動団体データベースの共有と活用

- 圏域内で活動する企業や各種団体、優れた人材などの把握に努め、その成果をまとめて公表することにより、圏域内でのマッチングや連携、各種活動の活性化を促進します。

3. 情報共有と連携

- 圏域での活動にあたっての情報共有と連携を進め、同種の活動の重複などがないよう調整し、各主体が活動しやすい圏域づくりをめざします。



海上パレード



がいな万灯



ガイナレ鳥取・市長会サッカースクール



3. 将来像

ビジョンの基本方向を展開することにより、以下のような圏域の将来像の実現をめざします。

**水と緑がつながる 人がつながる
神話の国から 未来へつなげる**

私たちが暮らす中海・宍道湖・大山圏域には、
ともに鳥取・島根の県境(船通山と三国山)にその源を発し、
西から東に向けて斐伊川(宍道湖・中海)、
東に日野川といった豊かな水の流れがあり、
日本海(大社湾や美保湾)へと注いでいます。
また、南は大山をはじめとする中国山地の山々が連なり、
北の島根半島とともに、豊かな緑に覆われています。
自然環境が豊かなこの圏域は、
八岐大蛇や国引き神話、国譲り神話など
数多くの日本神話の舞台ともなりました。

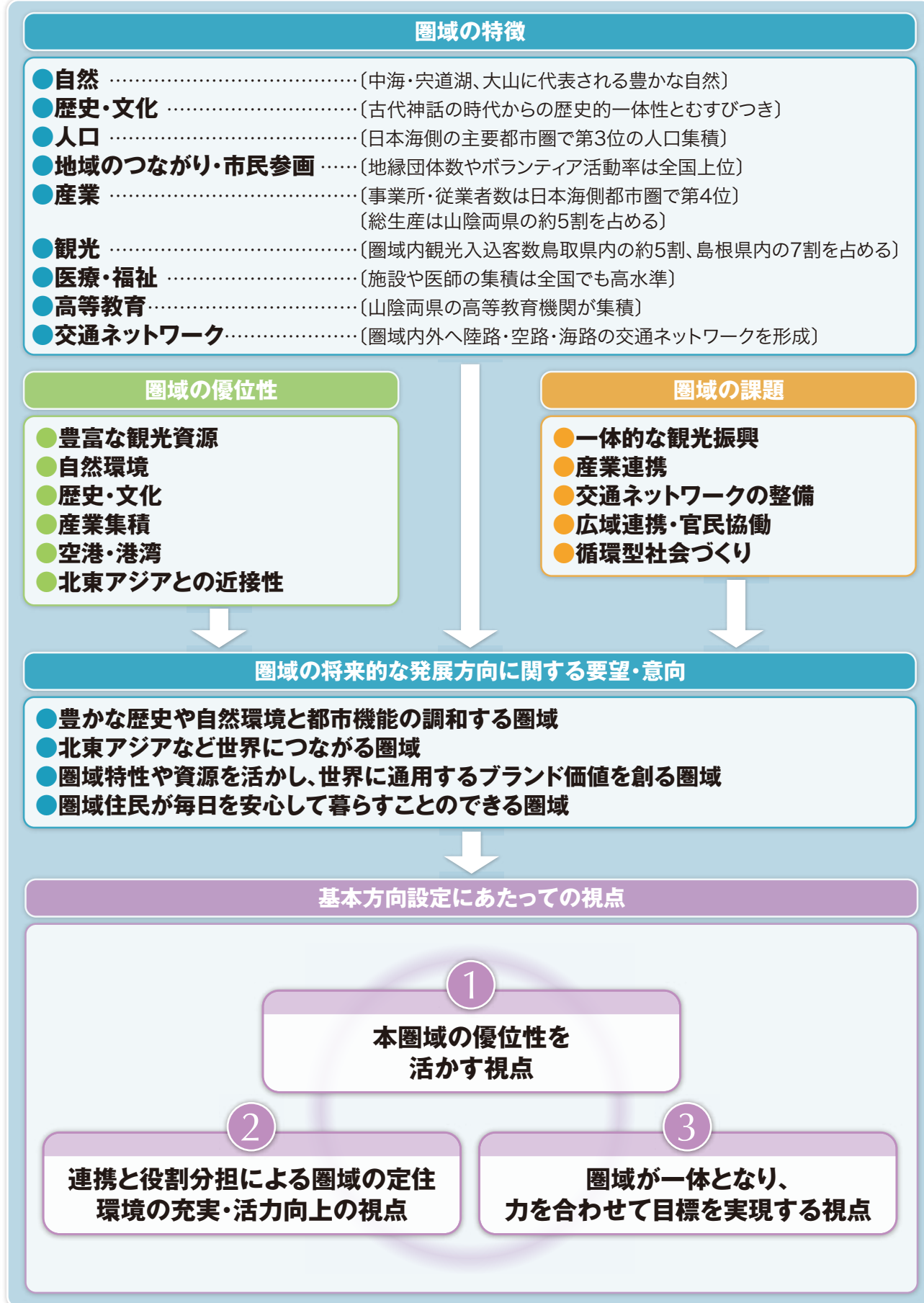
この圏域に暮らす人々は、日本神話の時代から、
この豊かな水と緑に育まれながら、
圏域内だけでなく国内・対岸諸国との人と人とのつながりを通して
新しい文化と技術を創造し、この圏域の発展につなげてきました。

「水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から 未来へつなげる」
というこの圏域の将来像には、

これまでもさまざまなつながりによって
新たなものが生み出されてきたように、
今後もこの圏域が一体となって、
神話に彩られた歴史・文化を継承しながら、
いっそうの交流と連携を育むことにより、
圏域の個性にさらに磨きをかけ、
新しい産業や文化を創造し、
人の元気と魅力にあふれる圏域の未来へつなげていこう
という思いを込めました。



<ビジョンの骨格>



ビジョンの基本方向

- 基本方向 1 活力にあふれる圏域づくり [産業振興]**
1. 力強い産業圏域の形成
 2. 圏域内外を結ぶ交通ネットワークの充実
 3. 北東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用
- 基本方向 2 訪ねてみたい圏域づくり [観光振興]**
1. 圏域観光の魅力向上
 2. 圏域観光ネットワークの形成
 3. インバウンド観光の推進
 4. 圏域観光体制の充実
- 基本方向 3 住みたくなる圏域づくり [環境の充実]**
1. 自然環境の保全と活用
 2. 歴史・文化の継承と活用
 3. 安心して暮らすことのできる環境の充実
- 基本方向 4 とともに歩む圏域づくり [連携と協働]**
1. 人材確保・育成の体制づくり
 2. 人材・活動団体データベースの共有と活用
 3. 情報共有と連携

将来像

水と緑がつながる 人がつながる
神話の国から 未来へつなげる



第4章 ビジョンの推進にあたって

～中海・宍道湖・大山圏域市長会の担う役割

本市長会は、ビジョンに掲げる将来像の実現に向けて、圏域が一体となって取り組むことで実施が可能となる事業や圏域を活性化させる効果が見込まれる事業について、「ともに考え、連携する市長会」をめざし、事業実施にあたっては以下の役割を担います。

(1) 圏域の一体感を醸成する役割

将来像を実現するには、本ビジョンを圏域内の住民・NPOや各種団体、企業、行政などの多様な主体が共有した上で、相互に力をあわせてビジョンに基づく取り組みを進めていくことが不可欠です。

市長会では、観光・産業振興をはじめ、さまざまな分野における連携・交流機会や情報発信活動などを通じて、関係者間における相互理解を促進し、圏域としての一体感の醸成に取り組むこととします。

(2) 圏域内の各主体の協働・連携を促進する役割

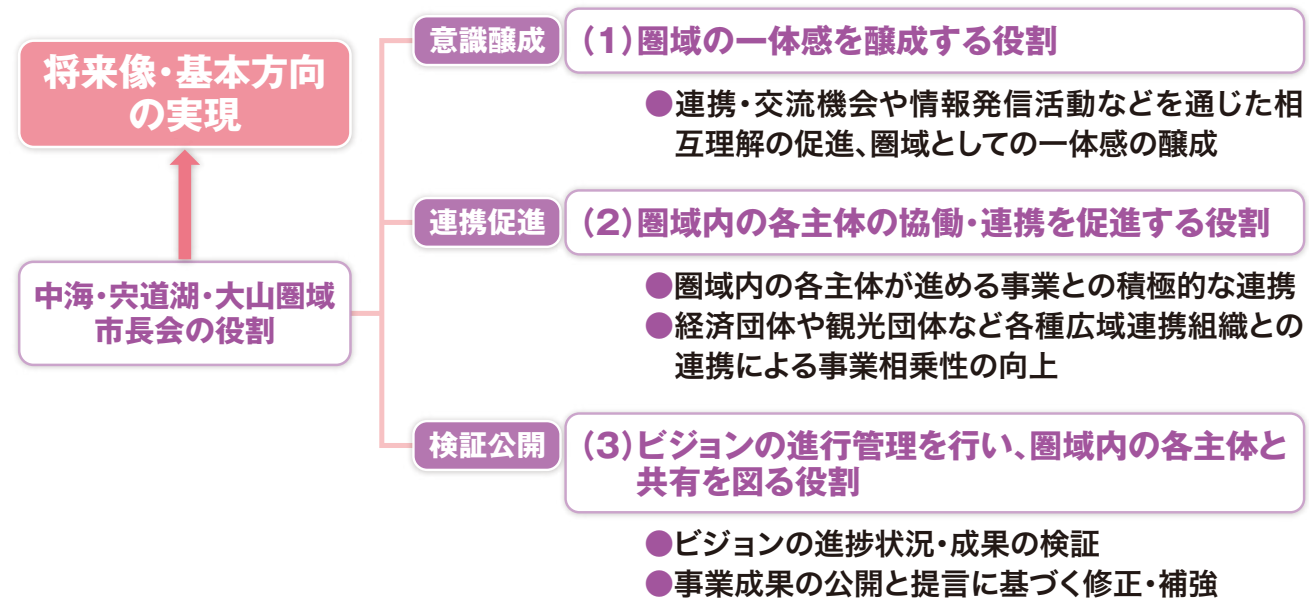
ビジョンに基づく取り組みを効果的に展開するために、圏域内の各主体が進める事業との積極的な連携を図るほか、経済団体や観光団体など、各種広域連携組織との協働・連携を進め、相乗効果の高い事業展開を図ることとします。

(3) ビジョンの進行管理を行い、圏域内の各主体と共有を図る役割

ビジョンの推進にあたっては、本圏域を取り巻く内外の情勢変化や動向に柔軟に対応し、実効性を高めるとともに、計画的で着実な遂行を図っていくことが求められます。

このため、ビジョンの進捗状況と成果を検証することにより、推進に向けた課題への対応等について検討を行うこととします。

また、圏域住民などの各主体に向け、年度毎に行なった事業について公開するとともに、各主体からの意見・提言を踏まえ、年度毎の事業計画を検討することで、情勢変化に合った事業展開を図ることとします。



[参考1] 圏域の振興に関するアンケート調査票

中海・宍道湖・大山圏域の振興に関するアンケート調査

I. はじめに

問1 貴社・貴団体の所在地をお選びください。(本社等ではなく、現在ご記入いただいている事業所の所在地を1つ選んで○をつけてください。)

1. 米子市 2. 境港市 3. 松江市 4. 出雲市 5. 宍来市 6. その他

問2 貴社・貴団体の主な事業エリア・活動エリア(販売先地域、活動範囲、集客エリア等)として、あてはまる主なものを3つまで選んで○をつけてください。

1. 所在地の市内のみ	7. 中国地域内
2. 所在地の市および近隣市町村	8. 西日本
3. 中海・宍道湖・大山周辺の地域	9. 全国
4. 鳥取県内全域	10. 海外
5. 島根県内全域	11. その他
6. 山陰両県全域	()

II. 事業環境に関する満足度・重要度

問3 貴社・貴団体は、主な事業エリア・活動エリアの現状について、どの程度満足していますか？ また、貴社・貴団体の事業活動にとって、各項目はどの程度重要だと思いますか？
満足度は1～4、重要度はA～Dから、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

【記入例】 数字に□ アルフベットに□

高速道路等広域的な道路網	1	2	③	4	A	ⓑ	C	D
--------------	---	---	---	---	---	---	---	---

項目	満足度				重要度			
	1 満足している	2 満足	3 どちらかといえば 不満	4 どちらかといえば 不満である	A 重要である	B 重要である	C どちらかといえば 重要ではない	D どちらかといえば 重要ではない
○ 交通インフラについて								
(1) 高速道路など広域的な道路網	1	2	3	4	A	B	C	D
(2) 空港(航路)の利用しやすさ	1	2	3	4	A	B	C	D
(3) 港湾(航路)の利用しやすさ	1	2	3	4	A	B	C	D
(4) 鉄道の利用しやすさ	1	2	3	4	A	B	C	D
(5) 路線バスの利用しやすさ	1	2	3	4	A	B	C	D



項目	満足度				重要度			
	1	2	3	4	A	B	C	D
	満足している	満足 どちらかといえば	不満 どちらかといえば	不満である	重要である	重要である どちらかといえば	重要ではない どちらかといえば	重要ではない
○ 交流・連携について								
(1) 隣県の情報を収集できる環境	1	2	3	4	A	B	C	D
(2) エリア内での同業種間の交流・連携	1	2	3	4	A	B	C	D
(3) エリア内での異業種との交流・連携	1	2	3	4	A	B	C	D
○ 人材確保・育成について								
(1) 優良な人材の確保	1	2	3	4	A	B	C	D
(2) エリア内の社会人向け教育環境	1	2	3	4	A	B	C	D
(3) エリア内の専門知識・技術等の習得機会	1	2	3	4	A	B	C	D

問4 そのほか、活動エリア内における事業環境に関して、ご意見・ご提言等があれば自由にお書き下さい。

事業環境に関する

Ⅲ. 中海・宍道湖・大山圏域の可能性について

問5 中海・宍道湖・大山圏域(米子市・境港市・松江市・出雲市・宍来市・鳥取県西部町村)の圏域振興において、どのような資源を積極的に活用すべきだと思いますか?あてはまるものを3つまで選んで○をつけてください。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 地理的優位性 | 5. 人口と産業の集積 |
| 2. 歴史・文化に関する資源 | 6. 医療・福祉拠点の集積 |
| 3. 豊富な観光資源 | 7. 大学・公的研究機関の集積 |
| 4. 豊かな自然環境に関する資源 | 8. 人・地域・活動団体に関する資源 |
| | 9. その他() |

お選びになった選択肢について、具体的な例やイメージがあればご記入ください。

問6 中海・宍道湖・大山圏域(米子市・境港市・松江市・出雲市・宍来市・鳥取県西部町村)の将来像として、あなたのイメージにもっとも近いものを1つ選んで○をつけてください。

1. 北東アジアなど世界につながる圏域づくり
 2. 豊かな歴史や自然環境と都市機能の調和のとれた圏域づくり
 3. 圏域特性や資源を活かし、世界に通用するブランド価値を創る圏域づくり
 4. 技術革新や多様な連携により、産業活力が高まる圏域づくり
 5. 圏域住民が毎日を守り暮らし続けることのできる圏域づくり
 6. 住民・企業・各種団体・行政等が連携・協働し、一体感を実感できる圏域づくり
 7. その他
- ()

お選びになった選択肢について、具体的な例やイメージがあればご記入ください。

Ⅳ. 中海・宍道湖・大山圏域における取り組みの満足度・重要度

問7 中海・宍道湖・大山圏域(米子市・境港市・松江市・出雲市・宍来市・鳥取県西部町村)の一体的な発展にとって、これらの取り組みの状況についてどのように思われますか?満足度は1〜4、重要度はA〜Dから、それぞれ1つ選んで○をつけてください。

【記入例】 数字に1つ○ アルファベットに1つ○

高速道路等広域的な道路網	1	2	③	4	A	ⓑ	C	D
--------------	---	---	---	---	---	---	---	---

項目	満足度				重要度			
	1	2	3	4	A	B	C	D
	満足している	満足 どちらかといえば	不満 どちらかといえば	不満である	重要である	重要である どちらかといえば	重要ではない どちらかといえば	重要ではない

○ 観光振興について								
(1) 圏域の一体的な観光情報の発信	1	2	3	4	A	B	C	D
(2) 圏域内をつなぐ旅行商品の開発	1	2	3	4	A	B	C	D
(3) 圏域の一体的な観光誘客活動	1	2	3	4	A	B	C	D
(4) 圏域の官民協働の観光施策の推進	1	2	3	4	A	B	C	D



項目	満足度				重要度			
	1 満足している	2 満足 どちらかといえば	3 不満 どちらかといえば	4 不満である	A 重要である	B 重要である どちらかといえば	C 重要ではない どちらかといえば	D 重要ではない
○ 産業振興について								
(1) 圏域の技術・産学官連携機会	1	2	3	4	A	B	C	D
(2) 圏域としての雇用確保の機会	1	2	3	4	A	B	C	D
(3) 圏域としての産業人材育成の機会	1	2	3	4	A	B	C	D
(4) 圏域の空港・港湾等交通拠点を活かした海外との経済交流	1	2	3	4	A	B	C	D
○ 環境保全について								
(1) 中海・宍道湖・日本海・各河川等の水環境・水資源の保全	1	2	3	4	A	B	C	D
(2) 森林環境・森林資源の保全	1	2	3	4	A	B	C	D
(3) 官民共同での循環型社会づくりの取り組み	1	2	3	4	A	B	C	D
(4) 環境教育の機会	1	2	3	4	A	B	C	D
○ その他について								
(1) 圏域内の一体的なイベント開催	1	2	3	4	A	B	C	D
(2) 青少年海外派遣研修事業	1	2	3	4	A	B	C	D
(3) 学校給食における圏域内特産食材使用事業	1	2	3	4	A	B	C	D

V. おわりに

問8 本アンケートの回答を踏まえ、後日個別に内容照会をさせていただくことも考えております。つきましては、下記にご記入者名・連絡先等をご記入ください。なお、ご記入いただいた内容については、本調査の目的以外には利用いたしません。

貴社・貴団体名	
ご記入者名	
部署名/役職	連絡先電話番号 () -

問9 最後に、中海・宍道湖・大山圏域市長会の活動についてのご意見・ご要望、あるいは圏域の発展に向けた取り組み等について、ご意見がありましたらご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
この用紙を返信用封筒に入れて、ご返信ください。

【参考2 圏域の現状に基づくSWOT分析】

圏域の現状を踏まえて圏域SWOT分析^(※10)を行ないました(以下に一覧表を掲載)。
なお、分析にあたっては、「統計資料による現状把握」「アンケート調査結果」「意見聴取結果」「圏域振興において活用すべき重要優位性」で得られた内容を本圏域の「強み(S)」と「課題(W)」に分類・反映しました。

S:本圏域の強み	O:本圏域を取り巻く機会(追い風となりうる要因)
<p><豊富な観光資源>※アンケート「圏域資源の活用可能性」(1位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 境港・水木しげるロード、足立美術館等の観光資源 ● 新鮮でおいしい食資源(農水産物) <p><豊かな自然環境資源>※アンケート「圏域資源の活用可能性」(2位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中海・宍道湖、日本海等の良質な水資源・ラムサール条約登録湿地 ● 大山を中心とした森林資源 <p><歴史・文化資源>※アンケート「圏域資源の活用可能性」(3位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出雲大社等の出雲古代文化、松江城、小泉八雲ゆかりの地等 <p><立地の優位性></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空港アクセスの利便性(アンケートCS結果:満足度6割超) ● アシアナ航空:米子-ソウル便を活用したアウトバウンド対策 ● 西日本の日本海側中央に位置する立地の優位性 ● 比較的地震が少ない地域 <p><良好な教育環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国立大学等高等教育機関などの立地 <p><圏域人口></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 約662千人(H22国勢調査)日本海沿岸では新潟市に次ぐ人口集積地 <p><経済・産業></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市町村内総生産(H21):両県の約半数 ● 製造業:製品出荷額(H22)の両県に占め割合は50.7% ● 貿易(境港):輸出入総額の回復(H21年における大幅減少からの回復) ● 観光入込数:H22年:2,500万人超。H20-22年間で約157万人増 ● 最先端技術(YSSヤスキハガネ、Ruby、水温技術、水の浄化技術) ● 伝統工芸品 <p><社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 北東アジアにおける社会経済交流のゲートウェイとしての拠点性 ● 国際的な空港・港湾。(年間計約2万人が来訪) ● 地域活動:NPO活動が盛んな地域(認証数が両県の約半数を占める) ● ソーシャル・キャピタル(社会関係性資本)の高い地域 ● サッカー、バスケットボールのプロスポーツチームが活動する地域 <p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療:両県の病床数52.3%・医師数63.1%で全国水準を上回る地域 ● 教育:大学等高等教育機関が集積する地域 <p><圏域の一体化></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 圏域内の通勤・通学・買物等の一体的な生活圏域が形成されている地域 ● 広域連携に取り組む団体の活動が盛んな地域 	<p><全国知事会による「日本海国土軸」形成に向けた提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 《日本再生デザイン〜分権と多様化による、日本再生〜》において、災害発生時の広域的な相互補完機能の強化を図るため、日本海沿岸道路網及び高速道路網整備、港湾の拠点化等を提言 <p><インバウンド観光・北東アジアからのアクセスの増加></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国土形成計画に基づく北東アジア重視の政策の推進 <p><ツーリズム産業の台頭></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「観光立国戦略」国を挙げた観光立国の実現に向けた政策の推進 ● グリーンツーリズム、着地型観光等新たなツーリズム形態の普及 <p><都市住民による「田舎」の再認識></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東日本大震災以降に顕在化した都市生活者の「田舎志向」の高まり ● 食の安全性に関するニーズの高まり ● 自然環境と共生した都市環境づくりへの関心の高まり ● 「半農半X」等を求めた地方への移住志向の高まり <p><暮らし方の変化></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 価値観やライフスタイルの多様化 ● 「働き方」の多様化 ● 消費社会から成熟型社会への転換 ● 環境問題に関する市民意識の高揚、参画機会の増加 <p><地方自治に関する変化></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中央主導の限界から分権型社会へと移行 ● 自立した個としての社会参加が進展 <p><情報化社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ソーシャルネットワークサービス(SNS)など市民メディアとしてのIT活用の普及
W:本圏域の弱み	T:本圏域を取り巻く脅威(向かい風となりうる要因)
<p><交通インフラの未整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路、公共交通の利便性の悪さ* <p><人材育成環境の未整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会人向け教育環境、専門技術の習得機会の満足度が高い* ● 魅力ある就業先の不足(専門性を活かせる職場、所得等好条件の職場) <p><観光産業振興の必要性></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光振興への重点改善ニーズの高さ* ● 観光にかかる情報発信不足・両県の観光情報共有の少なさ ● 旅行商品開発の必要性 ● インバウンド観光への対応不足 ● 広域観光を推進する組織の役割分担と効率化が必要 <p><圏域人口></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 推移では減少局面:H29年は640千人程度まで減少する可能性も ● 少子高齢化、生産年齢人口割合の低下傾向が続く <p><経済・産業></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市町村内総生産:H19-H21年間で約1,800億円減 ● 農業:農業産出額(H22)の両県占有割合は約4割だが減少傾向 ● 商業:小売業年間販売額(H19)の両県占有割合は約5割だが減少傾向 ● 中心市街地の集客機能の低下 <p><社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中山間地域の過疎化、高齢化及び担い手不足による集落機能の低下 ● 中山間地域内の地域活力の衰退と地域環境の荒廃 <p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育:児童生徒数減少により統廃合が進む ● 大学進学等を機会に人材が流出する傾向がある ● 子育て支援環境の供給不足(保育環境等) <p><圏域の一体化></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 圏域の一体感は未成熟 ● 県・市町村界が障壁となり圏域情報や各制度の統一・共有に課題 	<p><人材確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全国的な人口減少・少子化 ● 少子化による労働力不足の懸念 ● グローバル人材登用、優秀な人材確保の競争激化 <p><ツーリズム産業のリスクの顕在化></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光地間での誘客競争の激化 ● 東日本大震災後の外国人観光客の減少 ● 北東アジアの不安定な政治情勢:社会経済リスクの顕在化 <p><自然災害・エネルギー政策></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国のエネルギー政策に対する国民の不安の高まり ● 地球規模で深刻化する環境・エネルギー・資源問題の顕在化 <p><国内環境の変化></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本格的少子高齢化・人口減少社会の進行 ● 生産人口減少、国内市場飽和、労働力需給のミスマッチ等発生 ● 国・地方の財政硬直化が続くなかでの国民負担の増加 ● 地方立地・創業の低下 ● 人口政策・経済政策等における地域間競争の激化 <p><グローバル環境の変化></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境コストの増大と環境政策ニーズ増大に伴う利害調整 ● 経済成長、エネルギー利用、環境保全相互の問題が顕在化 ● 製造業における他国との技術・価格競争 <p><ガバナンスの変化></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 条件不利地域における自治機能など自立基盤の弱体化 ● 非「拡大・成長」時代における地域経営手法の確立 ● 税収減・地域自立の重要性増大 ● グローバルな都市間競争激化 ● 住民負担増

*…アンケート調査内CS分析結果より参照。

※10 SWOT分析:目標を達成するために意思決定を必要としている組織や個人の、プロジェクトやベンチャービジネスなどにおける、強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)を評価するのに用いられる戦略計画ツールの一つ。

だんだんサミット（中海・宍道湖・大山圏域市長会の愛称）

「だんだん」はこの地方の方言で「ありがとう」という意味です。この言葉は、圏域全体をイメージしやすく、親しみやすさがあります。

また、みんながお互いに「感謝」の気持ちをもって連携し、圏域の発展をめざそうという期待が込められています。

編集・発行

中海・宍道湖・大山圏域市長会

中海・宍道湖・大山圏域市長会ホームページ

<http://www.nakaumi.jp>